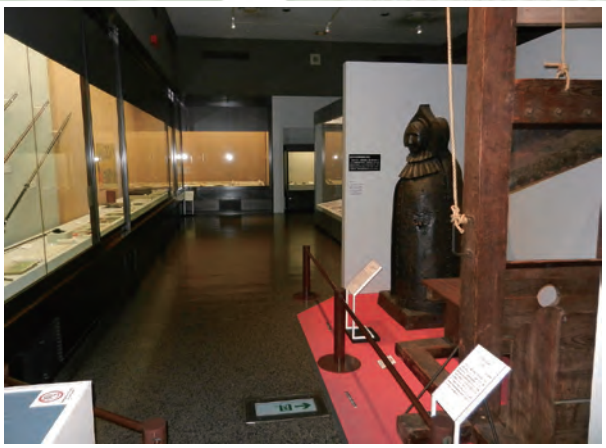
明治大学博物館

年報

2012年度



明治大学博物館

明治大学博物館

年　　報

2012年度

MEIJI UNIVERSITY
MUSEUM

明治大学博物館

目　次

巻頭言　　博物館館長　風間信隆（明治大学商学部教授）…… 5

Ⅰ　展示活動 …… 7

1 特別展（7）
2 その他の展覧会（12）

Ⅱ　教育普及活動 …… 15

1 講座（15）
2 博物館実習（16）
3 在学生対象事業（16）
4 アウトリーチ活動（17）
5 社会連携・大学間連携（17）
6 ボランティア受入（18）
7 情報提供（19）
8 明治大学博物館友の会（19）

Ⅲ　研究活動その他 …… 21

1 調査研究活動（21）
2 学芸員の研究業績（21）
3 刊行物（22）
4 大久保忠和考古学振興基金（23）

Ⅳ　収蔵資料 …… 25

Ⅴ　統計資料 …… 31

1 入館データ（31）
2 組織・構成（34）
3 予算・決算（36）
4 施設概要・見取り図（38）
5 規程（40）
6 2013年度教育・研究に関する計画書（47）
7 博物館のあゆみ（51）

表紙写真：特別展会場風景　本文7～11ページ参照

＜巻頭言＞

博物館館長　風間信隆
（明治大学商学部教授）

明治大学博物館は、周知のように 1929 年設立の刑事博物館、戦後間もなく開設された商品博物館（1951 年）・考古学博物館（1952 年）という長い伝統を誇る 3 館を統合し、2004 年 4 月、新たに生涯学習センターとしての役割を担うアカデミーコモン地階にリニューアル・オープンして誕生しました。この経緯から当博物館は、「商品」を通して生活文化のあり方を考える「商品部門」、法と人権を考える「刑事部門」そして人類の過去と多様性を考える「考古部門」の 3 部門から構成され、すでに 30 万点を超える収蔵資料を誇るまでに拡充し、我が国の大学博物館の中でも一頭地抜けた存在として知られております。リニューアル・オープン以来、関係各位のご協力とご支援により年間 8 万人余の来館者を数えるようになり、2012 年 5 月には 50 万人目の来館者をお迎えすることができました。

2012 年度において特筆すべき展示活動としては、10 月 12 日から 12 月 12 日の会期で開催された特別展「氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD」（明治大学黒耀石研究センターとの共同企画）、それから、名古屋市博物館と南山大学人類学博物館との共同開催により、2013 年 2 月 2 日から 3 月 17 日にかけて開催された「驚きの博物館コレクション展！　時を超え、世界を駆ける好奇心」を挙げることができます。

とりわけ、当博物館にとっては、前者の「氷河時代のヒト・環境・文化」の特別展は意義深いものがあります。明治大学は、戦後間もない 1949 年に岩宿遺跡の発掘調査を行い、その調査から我が国にも旧石器時代の人類が存在したことを発見したことで知られ、旧石器研究のフロンティアとして大きな足跡を残すとともに、その後の旧石器研究の一大ブームを常にリードしてまいりました。しかし、不幸なことに、ほぼ 10 年前に発覚した考古学界を揺るがす「ねつ造石器事件」を契機として、そのブームの熱気は失われたと言っても過言ではないほど旧石器研究は大きな打撃を受けました。こうした情況において、この特別展は、今一度明治大学を起点に旧石器研究の再出発を図ろうとするものとして位置づけることができます。その意味で、今回、全国各地の博物館・教育委員会等の多くの関係諸機関のご協力・ご支援により、800 点を超える第一級の貴重な資料を集めて特別展を開催できましたことは極めて意義深いものであると考えています。これを契機として再び我が国の旧石器研究に新たなエネルギーが生まれたと確信しております。

また南山大学人類学博物館との提携事業の一環として 2011 年度に開催されました「人類史への挑戦－南山大学考古・民族コレクション」も、2012 年度には名古屋市博物館との共催による「驚きの博物館コレクション展！」という特別展の開催という形でさらに進展し、一ヶ月強という開催期間中にその入館者は 1 万 3 千名を超えました。こうした実績を踏まえ、引き続き 2013 年度以降も南山大学人類学博物館とは交流事業を強化していくことが決まっております。

さて、当博物館は旧延岡藩主内藤家伝来の 5 万点にも達する貴重な藩政史料（「内藤家文書」）を収蔵しております。その関係で、毎年、延岡市で公開講演会を開催したり、同市内の小・中学生および宮崎県の高校生を対象とした作文コンテストを実施し（2011～2013 年度）、その優秀賞・入選者を明治大学に招待するなどの交流事業をおこなってまいりました。2012 年度は本来 8 月に開催予定であった授賞式が台風の影響により延期を余儀なくされましたが、その後、11 月に無事開催できました。この表彰式には保護者の

方々にもご出席いただき、博物館だけではなく大学各機関をご案内し、この交流事業は地元の新聞各紙に紹介されました。また内藤家が延岡藩主となる以前に長らく入封していた磐城平領（福島県いわき市）の古文書も当館に寄託されることになりました（2013 年 4 月受託）。今後、この資料の整理・研究に止まらず、いわき市との交流事業も図っていくことが期待されております。さらには延岡・いわき・明治の三者交流事業も期待されます。

2012 年度においては、福宮賢一学長から提起された「学長方針」を踏まえ、博物館のあり方を様々な角度から検討・議論してまいりました。その中で博物館の国際化と IT 化を実現する上で、「どこでもいつでも見学できる」バーチャル博物館構想を前進させることが確認され、その第一歩として特別展のアーカイブ化の充実を図ってきました。その一端として前述の特別展「氷河時代のヒト・環境・文化」も映像コンテンツ化されております。今後、ますますこのアーカイブ（URL: http://www.meiji.ac.jp/museum/mmarchive.html）を充実させ、当博物館の社会発信力の強化を図っていく所存です。

大学博物館特有の使命は、１）研究機能の充実、２）社会連携機能の拡充、そして、３）学内外の諸機関との共同利用機能の促進によって明治大学の社会的発信力を強化すること、にあるものと考えますが、その実現のためには福宮学長をはじめ、法人理事会、学生、教職員そして博物館友の会の皆さまのご協力、ご支援にも支えられていることが忘れられてはなりません。明治大学らしい、固有のミッションを問い続け、過去の「モノ」を通して現在のアイデンティティを再認識し、未来を展望する博物館独自の役割を果たし続けていかねばなりません。その目的を果たす上であらゆる固定的観念を打破し、絶えずゼロ・ベースで現状を見直し、「変化」に挑戦する姿勢を持ち続ける必要があります。その際、例えば、博物館の展示内容を絶えず見直し、研究者（情報・知識を持った発信者）の目線ばかりではなく、来館者（情報・知識を持たない受信者）の目線に立った展示の工夫はできないのか、さらには大学博物館固有の研究機能を強化・充実するためには何が必要なのか、大学博物館を明治大学全体あるいは社会連携機構の中でどのように位置づけるべきか、徹底した議論と検討が必要であると考えております。そのためにも博物館内部の議論と検討だけではなく、学内の関係各位・諸機関との積極的な「対話」（dialogue）と「共創」（engagement）が不可欠であると考えております。

Ⅰ 展 示 活 動

1　特別展

「氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD」

（1）実施形態

主　　催　明治大学博物館　　共同企画　明治大学黒耀石研究センター
会　　期　10 月 12 日（金）～12 月 12 日（水）　62 日間（会期中無休）
会　　場　明治大学博物館特別展示室　　入場料　￥300　　入場者数　3,647 名
企画構成　島田和高（明治大学博物館）

（2）趣旨

2000 年に発覚し，考古学界を揺るがした「前・中期旧石器時代遺跡ねつ造」事件の後，日本列島最古の人類文化はどのように探求されたのか？最初のヒトの足跡はいつ，どのように現れるのか？最初のヒト達は，どのように新天地を拓いたのか？これらは，日本列島を舞台とした人類史の基底に関わる重要な問題として学界のみならず，ひろく市民の興味を引きつける。本特別展は，考古学・人類学の分野で近年さかんに取り組まれている日本列島へのホモ・サピエンス（現代人）の拡散と定着について，日本各地の最古級の考古資料を用いて，研究の現状と考えうるシナリオの紹介を試みる。

「現代人の拡散」は約 20 万年前～3 万年前にかけて生起したグローバルな現象である。展示では，現代人が世界各地に拡散を繰り広げていた最終氷期の気候変動,またヒトと共存した絶滅動物の紹介を導入とする。

次にメインテーマである，日本列島への現代人の拡散と定着について，北海道から九州まで，全国各地から出土している 4 万年～3 万 5 千年前の最古級の旧石器を一堂に展示し，最新の学説を分かりやすく紹介する。展示品は，全国約 30 カ所の博物館・研究機関から借用し，「最古の列島人類文化」の全体像を一望することが出来る。

展示は，明治大学黒耀石研究センターと共同で企画する。展示コンテンツには，センターの所在地である長和町（長野県小県郡）と明治大学が共同で蓄積してきた黒曜石と人類史に関する研究成果，そして文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ヒト-資源環境系の歴史的変遷に基づく先史時代人類誌の構築」の研究成果を盛り込む。

（3）展示構成

①最終氷期の気候変動と絶滅動物

大型研究「ヒト-資源環境系の人類誌」共同研究者達によって提示されている最終氷期（6 万 5 千年前から 1 万年前まで）の気候変動と日本列島旧石器文化の年代測定結果を 1 枚のタペストリーにまとめ，氷河期（最終氷期）の全体像を紹介し，展示の導入とする。アフリカで進化した現代人（ホモ・サピエンス）は，アフリカから出立し後期更新世（約 12 万年～1 万年前）のうちに旧世界とオーストラリア，そしてアメリカ大陸まで拡散した。その拡散ルートとして近年注目を集めている「海岸移住（coastal migration)」仮説を紹介する。また，その移住の過程で現代人が世界各地で出会った更新世に絶滅した大型ほ乳動物を実物化石と化石レプリカを交えて紹介する。

■1-1. 展示の目的と EUP の世界　　■1-2. 現代人の拡散と絶滅動物

②EUP（後期旧石器時代前半期）の世界

日本列島の後期旧石器時代前半期（the Early Upper Palaeolithic：EUP）は，日本列島に現代人が到達し，さまざまな足跡を残し始め，にわかに列島が賑やかになる時代である。彼ら現代人が残した遺物からは，海洋や山岳部など居住に適さない地への進出や，片道 100km を超える移動生活，日本列島旧石器時代史上最も独特な景観をなすムラ跡など，生き生きとしたパイオニア達の暮らしぶりがうかがえる。展示は日本最古の石器群，太平洋上の神津島，そして霧ヶ峰・八ヶ岳の黒曜石原産地の開発と黒曜石の広域分布，環

状のムラとよばれる独特なムラ跡の実態と現代人の列島定着に果たした役割ほかを紹介する。また，現代人によって初めて獲得されたとされるシンボリックな行動の表れである装身具や線刻品,顔料を展示する。

■2-1. 最古の石器文化を求めて　■2-2. 環状のムラ，登場　■2-3. 環状のムラ，消滅

■2-4. コラム：装飾品・墓・シンボル　■2-5. 海をわたり，山をひらく

③ヒト−資源環境系の人類誌

黒耀石研究センターは「ヒト−資源環境系」をキーワードとした先史時代研究を実施している。ヒトが手に入れる生活物資を資源と考え，その分布や産状を調べ，ヒトによる具体的な獲得や消費の実態を復元することを目的としている。「ヒト−資源環境系」研究の重要な研究対象の一つが黒曜石原産地である。センターは，標高 1400m にある広原（ひろっぱら）湿原とその周辺陸域において，黒曜石原産地と原石の産状，遺跡の分布，人類活動の内容，そして気候・植生・年代・火山灰などの古環境を総合的に研究している。展示は，センターが発掘調査と古環境調査を近年実施している広原湿原の調査成果を公開する。

■3-1. 黒曜石をめぐる人類活動−広原湿原調査成果−

（4）展示資料概要

①資　料　数　833 点（内借用資料 822 点、館蔵資料 11 点）

②出展協力機関　秋田県立博物館，秋田市教育委員会，飯田市上郷考古博物館，飯田市教育委員会，印西市教育委員会，帯広百年記念館，帯広百年記念館埋蔵文化財センター，神奈川県教育委員会，神奈川県埋蔵文化財センター，鎌ヶ谷市教育委員会，鎌ヶ谷市郷土資料館，川南町教育委員会，川南文化ホール・図書館複合施設，鹿児島県埋蔵文化財センター，群馬県埋蔵文化財調査事業団，国分寺市教育委員会，小平市教育委員会，埼玉県埋蔵文化財調査事業団，埼玉県立さきたま史跡の博物館，静岡県埋蔵文化財センター，信濃町教育委員会，千葉県教育委員会，鈴木遺跡資料館，千葉県立房総のむら・風土記の丘資料館，調布市教育委員会，調布市郷土博物館分室，津南町教育委員会，津南町農と縄文の体験実習館なじょもん，東京都教育委員会，遠野市教育委員会，遠野まちなか・ドキ・土器館，長野県立歴史館，成田市教育委員会，沼津市教育委員会，沼津市文化財センター，野尻湖ナウマンゾウ博物館，原村教育委員会，府中市教育委員会，府中市郷土の森博物館，府中市埋蔵文化財整理事務所，北海道立埋蔵文化財センター，宮崎県埋蔵文化財センター，三芳町教育委員会，三芳町立歴史民俗資料館，武蔵国分寺跡資料館，山梨県立考古博物館

（5）特別展連動講座

第 51 回明治大学博物館公開講座「考古学ゼミナール」

特別展連動講座『氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD』

日　時　10 月 12 日（金）ー11 月 9 日（金）　18:00〜20:00（全 4 回）

会　場　リバティタワー教室　受講料　5,000 円　参加者　のべ 278 名

《講座趣旨》

私たちの祖先であるホモ・サピエンス(現代人)がアフリカで進化したのち、どのように全世界へ拡散していったのか?日本列島に残されている氷河期の化石人骨について、どのようなことが分かっているのか?氷河期の人類と共存した動物たちの運命は?日本列島に最初に定着した氷河期の人々は、どのような生活をしていたのか?これらの問題は、人類の進化と歴史を探る人類学・考古学などの分野では、とても重要な課題として注目を集め、多くの研究者が議論しています。本講座と博物館特別展「氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD」では、そうした取り組みの一端を紹介します。

《プログラム》

第 1 講　10/12　「ユーラシア東部における後期旧石器時代の成立」　佐藤宏之（東京大学）

第 2 講　10/19　「日本の旧石器時代人骨はどこまで遡るか：列島に原人や旧人は渡ってきていたか」　松浦秀治（お茶の水女子大学）

第 3 講　11/02　「最終氷期に生き、そして絶滅した象たち」　高橋啓一（滋賀県立琵琶湖博物館）

第 4 講　11/09　「日本列島にヒトが現れた頃：EUP の世界」　島田和高（明治大学博物館）

（6）特別展映像デジタルコンテンツの作成

2012 年度特別展「氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD」の映像デジタルコンテンツ（約 30 分）を制作し博物館ホームページにおいてストリーミング公開した。制作・著作：ユビキタス教育推進事務室・明治大学，制作協力：アイフォスター

特別展展示風景

開幕式典（2012 年 10 月 12 日）

内覧会（2012 年 10 月 12 日）

更新世絶滅動物

環状のムラ

合同特別展「驚きの博物館コレクション展！　時を超え、世界を駆ける好奇心」

（1）実施形態

主　　催　明治大学博物館・南山大学人類学博物館・名古屋市博物館
会　　期　2013 年 2 月 2 日（土）～3 月 17 日（日）　37 日間（月曜・2/26 休館）
会　　場　名古屋市博物館特別展示室　　入場料　一般￥600　高大生￥400　中学生以下無料
入場者数　13,570 名

（2）趣旨

2010 年から始まった愛知県名古屋市の南山大学人類学博物館との交流事業の一環として、明治大学の誇る数々の博物館収蔵資料を名古屋で展示公開することになった。名古屋市博物館を会場に、３館のジョイントで博物館コレクションの形成をテーマとする展覧会を開催した。展覧会の全体趣旨は博物館コレクションの形成ということで、考古学、歴史学、民族学等の学術分野、大学だけではなく受贈した個人や企業コレクションなど来歴としても多様なケースを紹介することができた。明治大学からは、アカデミーコモンＢ２Ｆ常設展示の主役級に加え、館蔵品の中から西志賀貝塚出土遺物や陶器の試作品、長良川の治水関係古文書など名古屋市や東海地方ゆかりの資料を出展した。このほか、ヨーロッパで出土した石器類、大名家文書、江戸期の服飾、絵画資料、昭和の商品、オセアニアやニューギニアの民族資料、いろはカルタなど、３館の収蔵品によって過去から現在に至るまで、また、ワールドワイドな展開を見せる多彩なコレクションの数々が出展されている。

（3）展示構成

導入：名古屋市西志賀遺跡[明][南][名]

①他者を知る／自己を知る―1960 年代の日本／異なる文化・異なる人類
日本人の生活スタイルが劇的に転換した 1960 年代前後の資料（昭和の家電製品[南]、伝統的工芸品と化学工業製品[明]）を展示。また、タイ北部山地民、パプアニューギニア、オセアニア関係の民族誌資料[南]。考古資料として絶滅哺乳類と人類の化石[明]、マーリンガー神父収集によるヨーロッパ旧石器[南]を出展。

②遙かなる過去へ―地中から掘り出された日本列島の歴史
岩宿遺跡･砂川遺跡等の旧石器[明]、夏島貝塚の縄文早期遺物[明]、東北地方･東海地方の縄文晩期遺物[明]、ジェラール・グロート神父の縄文時代遺物コレクション[南]、遠賀川式土器（弥生）[明]、弥生時代の墓制[明]、銅鐸と武器形青銅器[明]、高蔵遺跡・瑞穂遺跡（弥生）[南]、舟塚古墳出土埴輪他東日本の古墳時代遺物[明]、鏡・石製品[明]、大須二子山古墳[南]など、日本の先史時代を代表する遺物、また、東海地方の遺物を展示。

③近世の光と影―刑罰史、城下町のくらし、ことばのコレクション
旧刑事博物館の初期拷問・刑罰関係コレクション[明]、名和弓雄他の捕者道具コレクション[明]、近世地方文書と譜代大名内藤家文書[明]、近世期の名古屋の習俗を描いた高力猿猴庵の著作[名]、江戸～明治期の名古屋周辺の陶磁[名]、松坂屋百貨店による着物のコレクション[名]、時田昌瑞ことわざコレクション[明]、など近世・近代期の多彩なコレクションを展示。

（4）展示資料数

総出展件数　1629 点（内訳：明治大学博物館 879 点　南山大学人類学博物館 628 点　名古屋市博物館 122 点）

（5）関連事業

①講演会
日時　a 2013 年 2 月 2 日（土）　b 2013 年 2 月 17 日（日）　14:00～　会場　名古屋市博物館博物館講堂
a 大塚初重（明治大学名誉教授）　　明治大学考古学博物館のコレクション形成と西志賀貝塚の調査
b 後藤　明（南山大学人文学部教授）　オセアニアの物質文化

②ギャラリー・トーク
2/9,10 名古屋市博　2/16 南山大　2/23,24 明治大　3/2,3 名古屋市博　3/9,10 南山大　3/16,17 明治大

展覧会場の入口（名古屋市博物館）

旧商品陳列館が収集した愛知の物産

考古資料の展示

捕者道具コレクション

時田昌瑞ことわざコレクション

2　その他の展覧会

（1）主催・共催展覧会

ア　明治大学バイオ資源化学研究所と共催

URUSHI！―漆 Part1 多彩な漆利用 栽培から漆芸まで	
会　　期	3 月 17 日～4 月 16 日 31 日間
入場者数	2668 名
漆掻きとその道具、漆塗り刷毛、漆器の製造工程や金蒔絵、螺鈿、堆錦、変り塗といった加飾技法、漆染色、漆蜂蜜、漆コーヒー、漆炭、漆板・箱、床磨き、ワックス、漆酒など多彩な漆利用の可能性について紹介した。	

イ　明治大学バイオ資源化学研究所と共催

URUSHI! ―漆 Part2 並木恒延漆絵の世界	
会　　期	6 月 9 日～7 月 9 日 31 日間
入場者数	5132 名
パート1で紹介した、漆の生育から樹液採取、漆塗り、加飾といった一連のプロセスの集大成として芸術表現を展示した。油彩、水彩、水墨画とも異なる絵画技法の新たな境地―漆絵作家並木恒延氏による漆絵、蒔絵、螺鈿の華麗な世界を紹介した。	

ウ

夏休みいろはカルタまつり ―時田昌瑞ことわざコレクションから―	
会　　期	7月27日～8月26日 24日間 ※中断あり
入場者数	2391 名
ことわざ研究の第一人者であり、江戸いろはカルタの解説でも知られる時田昌瑞氏から寄贈されたカルタを紹介。江戸時代から、明治、大正、戦後から現代へと、時代とともに世相を反映しつつ移り変わるカルタを展示した。	

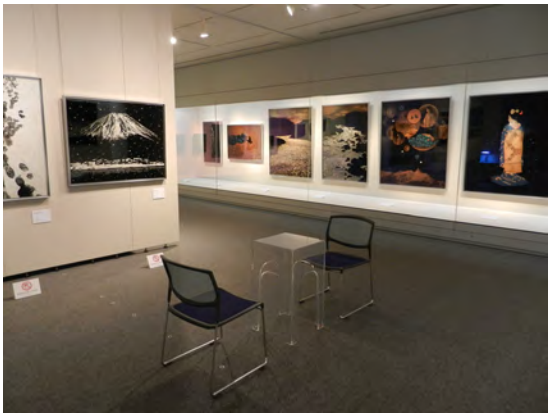
※明治大学中央図書館、明治大学ことわざ学研究所、株式会社奥野かるた店との合同による「ことわざリレー展示」の一環として開催した。

エ

刑事部門収蔵品紹介 内藤家文書の魅力	
会　　期	7月27日～8月26日 24日間 ※中断あり
入場者数	2391 名
内藤家文書は、岩城平・延岡を旧領とする内藤藩7万石の当主内藤家伝来の史料群。近代史料を含めると約5万点。膨大な史料の中から神事・芸能関係資料に注目し、地域社会との関係を視野に入れつつ、藩主家が神事・芸能にどのように関わってきたかを提示した。	

※「ウ」と同時開催

漆器の製造工程（ア）



蒔絵、螺鈿、卵殻による華麗な漆絵（イ）

教育カルタの変遷（ウ）

能楽関係資料の展示（エ）

オ

新収蔵資料展2012	
会　　期	9 月 1 日～9 月 19 日　19 日間
入場者数	1022 名
2011 年度に明治大学博物館が新たに収集した資料および関連する収蔵資料を紹介。江戸時代の捕縛方法を紙人形で実際に示した「捕縛仕様人形秘伝」、古代瓦・窯業史の研究者であった故国士舘大学名誉教授大川清旧蔵の瓦資料などを展示。	

カ　明治大学日本先史文化研究所と共催

下郷コレクションと霞ヶ浦の貝塚	
会　　期	2 月 16 日～3 月 17 日　30 日間
入場者数	2266 名
コレクションの由来と利根川下流域から霞ヶ浦沿岸地域の縄文時代貝塚から出土した膨大な骨角器類、研究所が推進している土器製塩・貝輪製作技術・貝塚調査などの最新の研究成果を展示公開した。	

キ

新収蔵資料展2013	
会　　期	3 月 23 日～4 月 14 日　23 日間
入場者数	1625 名
2012 年度に博物館が新たに収集した資料および関連する収蔵資料を紹介。弥生時代の銅鐸文化の最終段階に位置付けられる近畿式の銅鐸、『刑罪大秘録』流布本3種、拷問縄という特殊な捕縄術の免許状、有田焼の新開発商品などを紹介。	

（2）その他の展覧会

公益財団法人植村記念財団
明治大学体育会山岳部　　主催

冒険家植村直己の足跡	
会　　期	4 月 26 日～5 月 27 日　32 日間
入場者数	4549 名
日本人初のエベレスト登頂、世界初の五大陸最高峰登頂、北極点への犬橇単独到達など数々の業績を冒険史に残した明治大学山岳部 OB 植村直己。冒険の原点である明治大学山岳部の活動に始まり、その生涯にわたる冒険の足跡をたどり、極限で撮影された写真と実物資料を通してその生き様に触れた。	

刑事関係新収資料（オ）

下郷コレクションの縄文土器（カ）

捕者長柄道具の描かれた芝居絵（キ）

植村直己　明大山岳部時代の展示

（3）コレクション展

①商品部門

ア

テーマ	文化財の保存　人知れず活躍する道具達
期　間	3 月 1 日～4 月 30 日　61 日間
文化財の保存技術について、展示室内の空気環境に関するものを紹介するため、汚染物質除去シート、汚染物質の検知試薬、温湿度記録装置、温湿度カウンターなどを展示した。	

イ

テーマ	木の造形 北海道･東北地方の工芸品や郷土玩具
期　間	5 月 1 日～6 月 30 日　61 日間
当該地の風土や風習、歴史や伝説などを反映する木彫（アイヌの盆、笹野一刀彫、お杉わらべ、こけし、八幡馬、木ノ下駒、三春駒、チャグチャグ馬コ）を紹介。	

ウ

テーマ	うつわの文様
期　間	7 月 1 日～9 月 30 日　92 日間
染付磁器や九谷焼、切子などのうつわに施されたさまざまな文様の起源を探った。悠久の時を経て伝わる造形美、意味付けを確認した。	

エ

テーマ	伊勢型紙
期　間	10 月 1 日～11 月 30 日　61 日間
型紙が鈴鹿白子・寺家地区で独占的に生産された歴史を紹介した。型紙、製作工程見本、小刀、デザイン帳を展示。	

オ

テーマ	戯言尽　時田昌瑞ことわざコレクションの刷物より
期　間	12 月 1 日～2013 年 2 月 28 日　90 日間
ことわざをもじり絵画化するなど､｢ことば｣を視覚的に表してきた江戸時代の感覚を宿す刷物を展示。判じ絵形式の江戸の地図を読み解くための書き込み式パネルも設置した。	

カ

テーマ	刀装具　意外な意匠　時田昌瑞ことわざコレクションより
期　間	2013 年 3 月 1 日～4 月 30 日　61 日間
刀には本来の機能とは関係のない装飾があることに注目し、鐔・小柄・目貫にほどこされた模様にフォーカスした。取り上げた画題は「猿猴捉月」「瓢箪鯰」「鼠の嫁入り」。	

②考古部門

ア

テーマ	明大コレクション 1：中国鏡
期　間	3 月 7 日～5 月 31 日　86 日間
考古部門の代表的な収集資料のひとつである中国鏡 42 面の展示。	

イ

テーマ	明大コレクション22：九州の弥生時代甕棺
期　間	6 月 1 日～8 月 31 日　85 日間
弥生時代の王墓が出土したことで著名な佐賀県桜馬場遺跡の甕棺を復元。中から出土したガラス製管玉もあわせて紹介。	

ウ

テーマ	明大コレクション23：雨滝遺跡のミニチュア土器
期　間	9 月 1 日～12 月 5 日　96 日間
岩手県雨滝遺跡出土の祭祀用と考えられるミニチュア土器群（縄文時代晩期）を展示。	

エ

テーマ	明大コレクション24：前場幸治コレクション②中国・朝鮮の瓦
期　間	12 月 6 日～2013 年 2 月 28 日　72 日間
前場コレクションの中から、中国と朝鮮半島に関係する瓦を展示。日本では普及しなかった鬼龍子についても紹介。	

オ

テーマ	明大コレクション25：坂本万七コレクション美術写真からみる考古学
期　間	2013 年 3 月 1 日～6 月 3 日　95 日間(予定)
写真家坂本万七が撮影した当館所蔵の考古資料の写真を、実物と共に対比して展示。	

明大コレクション 24：前場幸治コレクションの展示

Ⅱ　教育普及活動

1　講座

（1）リバティアカデミー博物館入門講座

①

墓と副葬品から見た弥生時代			
日　時 定　員	6 月 29 日～7 月 27 日　金曜日 15:00～16:30〈全 5 回〉　定員 30 名		
講　師	忽那敬三(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥8,000		
受講登録者数	43 名	会場	309C・博物館教室
墓に関連した弥生時代の出土資料を題材に、弥生社会の変化と葬送の思想を探る。			
①弥生時代の墓と副葬品 ②甕棺墓の世界－桜馬場遺跡・熊本県御船町出土甕棺 ③青銅器の副葬－武器形青銅器と鏡 ④再葬墓と管玉副葬－殿内遺跡・出流原遺跡・南御山遺跡 ⑤弥生終末期の墳墓祭祀－原目山墳墓群			

②

古墳の副葬品と被葬者			
日　時 定　員	11 月 13 日～12 月 11 日　金曜日 15:00～16:30〈全 5 回〉　定員 30 名		
講　師	忽那敬三(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥8,000		
受講登録者数	40 名	会場	309G・博物館教室
代表的な古墳の副葬品の観察を通し、その種類や意味について学ぶ。			
①古墳時代の埋葬施設と副葬品 ②発達する鉄製の武器と武具－大刀（姫塚古墳）・鏃・短甲（高林古墳群・三昧塚古墳） ③祈りの道具・石製品－滑石製模造品（お富士山古墳）・石製腕飾類・合子形石製品 ④大きな鏡・小さな鏡－三角縁神獣鏡（伝京都府物集女）・重圏文鏡 ⑤装身具と被葬者－玉類(玉里舟塚古墳)と被葬者の年齢・性別			

（2）リバティアカデミー博物館公開講座

①明治大学博物館考古学ゼミナール

ア

第 50 回『日本考古学の未来』 明治大学考古学研究室と共同企画			
日　時 定　員	5 月 25 日～6 月 22 日　金曜日 18:00～20:00〈全 5 回〉　定員 150 名		
講　師	大塚初重(明治大学名誉教授),海部陽介(国立科学博物館)，中村哲也（美浦村教育委員会)，水野敏典（奈良県立橿原考古学研究所)、禰冝田佳男（文化庁)		
受講料	¥5,500	受講登録者数	103 名
50 回記念として、邪馬台国、人類の登場、地域考古学、デジタル解析、震災と考古学というトピックを通して、日本考古学のこれからを考える。			
①邪馬台国論争のゆくえ（大塚) ②ホモ・サピエンスの進化－世界拡散と日本列島－（海部) ③地域考古学のこれから－茨城県陸平貝塚の実例から－（中村) ④デジタルと考古学－三角縁神獣鏡を読み解く－（水野) ⑤震災と考古学－淡路大震災の復興と発掘調査、そして東日本大震災－（禰冝田)			

イ

第 51 回　特別展連動講座 『氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD』			
日　時 定　員	10 月 12 日～11 月 9 日　金曜日 18:00～20:00〈全４回〉　定員 100 名		
受講料	¥5,500	受講登録者数	83 名
詳細は「１展示活動―１特別展」(p8) 参照			

②リバティアカデミー・オープン講座

東西文化の邂逅と輸出漆器 ―日本文化のヨーロッパ伝播とその受容― 明治大学バイオ資源化学研究所と共同企画			
日　時 定　員	12 月 8 日　土曜日 13:00～17:00　定員 150 名		
講　師	ヨーゼフ・クライナー(ボン大学名誉教授・法政大学特別教授)、日高薫（国立歴史民俗博物館)、宮腰哲雄(明治大学理工学部教授)		
受講料	一般￥1,500	受講者数	118 名
16 世紀以来ヨーロッパへ輸出された漆器を軸に、当時の東西文化交流のあり方、また、輸出漆器研究への応用が期待される科学分析手法について紹介した。			
①近世日欧交流の知られざる側面―漆器・武具・着物がヨーロッパに及ぼした影響（クライナー） ②漆器をめぐる文化交流（日高） ③漆とは？―不可思議にして魅惑の物質（宮腰）			

（３）公開特別講義

①商学部・大学院商学研究科連携

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.7 有田焼商品開発のターニングポイント ―産地卸売商社から見た市場動向の変化―			
日　　時	12 月 5 日　水曜日　16:20～17:50		
講　　師	金子真爾 （有限会社金照堂代表取締役社長）		
パネラー	高橋昭夫（商学部教授）・福田康典（商学部准教授）・上原義子（商学部兼任講師）他		
進　　行	外山　徹(商品部門担当学芸員)		
参 加 費	無料	受講者数	195 名
佐賀県有田町の卸売商社の経営者を招き、流通業の立場から、また、有田焼の産地からの視点で、和食器の市場動向と商品開発の現状を分析した。近年の動向としては、大きなロットの商品がなくなり、少量生産と多様化の傾向がある。商品のライフサイクルは短くなった。テーブルウェアとしての高い機能や、消費者の趣向を反映したデザイン、産地の歴史性などの付加価値のある商品を開発する必要が指摘された。			

2　博物館実習

（１）館務実習

①商品部門

参加者	明治大学 29 名
実　習 内　容	館内施設・設備見学、ワークシート作成実習、収蔵資料整理、特別展受付担当

②刑事部門

参加者	明治大学 17 名
実　習 内　容	館内施設・設備見学、収蔵資史料の整理、常設展展示解説、特別展受付担当他

③考古部門

参加者	明治大学29名、帝京大学1名、創価大学1名
実　習 内　容	収蔵資料整理、保存処理、坂本万七写真研究所コレクション整理、特別展受付担当

（２）見学実習

5 月 26 日　創価大学学芸員課程　12 名

3　在学生対象事業

①学部間共通総合講座

「博物館の現場を実見する」（後期開講）水曜５限

《授業の概要・目的》

明治大学博物館で実際におこなわれている展示活動、調査・研究のケース・スタディ、最先端の施設・設備の実見、収蔵資料の実物の見学、などを通して、博物館とはどのような場所であり、どのような活用の可能性があるのか、理解を深めることを目的とします。社会生活を営む中でいかに博物館を有効に活用するか？　現代の博物館は、ただ、展示を見学するばかりではなく、友の会やボランティア活動など、利用者がより主体的に活動に関与する機会が開かれ、そのイメージは大きく変貌しつつあります。また、博物館は成人教育の場であるとともに、親子が共に学べる家庭教育の場としての発展が期待されています。生涯学習社会にあって誰にも平等に保証された教育の機会である博物館をより有効に利用するため、リアリティある実物実見を通して、その現場の状況を理解していただきます。

	テーマ	担当者
①	大学博物館の果たす社会的役割	矢島國雄※
②	大学博物館の現状と明治大学博物館の足跡	外山　徹
③	博物館の施設・設備	忽那敬三
④	常設展示解説1　江戸時代の刑罰	外山　徹
⑤	常設展示解説2　伝統的工芸品	外山　徹

⑥	常設展示解説 3　旧石器･縄文･弥生･古墳	島田和高
⑦	有形･無形の博物館資源(歴史資料)	外山　徹
⑧	有形･無形の博物館資源(考古資料)	忽那敬三
⑨	特別展「氷河時代のヒト･環境･文化」	島田和高
⑩	博物館の調査･研究2　埴輪から見た古墳時代後期の首長間関係	忽那敬三
⑪	博物館の調査･研究4　伝統的工芸品の経営とマーケティング研究	外山　徹
⑫	博物館の調査･研究1　古文書の調査研究と公開	外山　徹
⑬	博物館の調査･研究3　黒曜石研究からみたホモサピエンスの旧石器対応	島田和高
⑭	ふりかえりと展望　これからの博物館	矢島國雄

履修者数 16 名

※文学部教授（学芸員養成課程）・博物館協議会委員長・本講座コーディネーター

②国際日本学部「文化資源学」　夏期集中講義

《授業の概要・目的》

日本文化の源流を過去にさかのぼって考察するための素材である文化財について、博物館が収蔵する資料の取り扱いを中心に学びます。我が国の歴史、伝統的な生活習俗のあり方、今日我々が教科書で学んでいる内容は、一体、どのようなプロセスを経て明らかにされてきたのか？　実習形式を取り入れ、文化財の実物を通した授業をおこないます。

	テーマ	担当
8 月 1 日	民俗資料・金石文	外山　徹
8 月 2 日	考古資料 1（旧石器）	島田和高
8 月 3 日	考古資料 2（埴輪）	忽那敬三
8 月 6 日	歴史資料	外山　徹

履修者数 7 名

4　アウトリーチ活動

出張授業「考古学ってなに？」

日時：5月21日　東京都多摩市立多摩第一小学校6年生

講師：忽那敬三・古豊裕次朗

受講者数：約 160 名

5　社会連携・大学間連携

（1）地域連携

①信州黒曜石フォーラム 2012

―黒曜石研究は考古学に何をもたらすのか―

主　催：信州黒曜石フォーラム実行委員会（委員長：小野　昭［明治大学黒耀石研究センター］、岡谷市教育委員会、諏訪市教育委員会、茅野市教育委員会、佐久穂町教育委員会、長和町教育委員会、下諏訪町教育委員会、長野県教育委員会、長野県立歴史館、財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター、長野県考古学会、明治大学博物館）

日　程：12 月 2 日（日）13：00～17:00

会　場：諏訪市博物館

事務局：明治大学黒耀石研究センター

＜プログラム＞

司　会：橋詰　潤（実行委員会事務局・明治大学黒耀石研究センター）

基調報告 1：「理化学的分析対象としての黒曜石」
隅田祥光（明治大学黒耀石研究センター）

基調報告 2：「黒曜石製石器における剥離技術研究」
高倉　純（北海道大学埋蔵文化財調査室）

基調報告 3：「黒曜石の表面観察から石器の一生を探る」岩瀬　彬（日本学術振興会特別研究員，明治大学黒耀石研究センター）

基調報告 4：「機能研究における黒耀石の特性」
村田弘之（長和町教育委員会）

基調報告 5：「教育教材としての黒耀石とその意義」
大竹幸恵（長和町教育委員会）

総合討論　司会：島田和高（明治大学博物館）

②宮崎県および宮崎県延岡市（内藤家文書交流事業）

ア　公開講演会

・延岡市内藤記念館共催歴史講演会 1

日時：9 月 29 日（土）

「譜代大名内藤家と能楽―能楽史料としての内藤家文書―」増田豪（内藤記念館主任学芸員）

「延岡転封前後の内藤藩財政の状況とその運営」
森　朋久（農学部兼任講師）

会場：内藤記念館会議室　受講者 61 名

・延岡市内藤記念館共催講演会 2

日時：2013 年 2 月 23 日（土）

「幕長戦争における延岡藩の動向」
大浪和弥（内藤記念館学芸員）

「内藤藩藩祖家長公と子息元長公の霊神奉祭」
外山　徹（刑事部門学芸員）

会場：内藤記念館会議室　受講者 72 名

・博物館友の会共催講座

日時：7 月 31 日（火）

「譜代大名内藤家と能楽―能楽史料としての内藤家文書―」増田豪（内藤記念館主任学芸員）

イ　「明治大学で宮崎の歴史を学ぼう　作文コンテスト」
対象：延岡市在学小中学生、宮崎県在学高校生
募集期間：5 月 1 日～5 月 31 日
応募者数：小学生 20 名、中学生 8 名、高校生 62 名、計 90 名
授賞式・明治大学訪問：11 月 10 日
（11 月 10 日～11 日東京招待）
〈小学生の部〉
優秀賞：新田庸理（私立尚学館小学校）
「延岡今山大師祭」
入選：高田凜太（方財小学校）「方財島」
〈中学生の部〉
優秀賞：菊池　恭（恒富中学校）
「監物や喜多右衛門に教えられたこと」
入選：甲斐京之介（恒富中学校）
「新ばんば踊りに込める思い」
〈高校生の部〉
優秀賞：東　愛里（宮崎南高等学校）
「太陽の国の女性校長」
入選：丸山優花（五ヶ瀬中等教育学校）
「これからの伝統芸能」
ウ　その他
延岡市の地域史学習サークル「充真院を学ぶ会」との交流

（2）大学間連携

南山大学人類学博物館との交流事業
①合同特別展の開催
驚きの博物館コレクション展！　時を超え、世界を駆ける好奇心
→「Ⅰ展覧会」（p10）参照

②合同シンポジウム成果刊行物の刊行
博物館資料の再生
―自明性への問いとコレクションの文化資源化―
発 行 所　有限会社岩田書院
発行部数　1800 部（内配布用特装版 1000 部）
市販価格　￥2,800＋税
《目次》
序 ～目指すものと現実と～
黒沢　浩（南山大学人文学部教授）
Ⅰ　ホンモノ／ニセモノの論理
―「文化の真正性」と博物館資料―
博物館資料の真正性をめぐって
矢島國雄（明治大学文学部教授）
ホンモノ／ニセモノの論理～博物館資料の価値とは何か～　黒沢　浩
創造／想像される「伝統」～本質主義的民芸理解と柳宗理「民芸の行方」との相克から～
濱田琢司（南山大学人文学部准教授）
伝統的工芸品は古美術の模倣か？～旧明治大学商品陳列館における伝統的工芸品収集～
外山　徹（明治大学博物館学芸員）
歴史資料としての「贋物」～明治大学博物館所蔵資料から～　忽那敬三（明治大学博物館学芸員）
Ⅱ　博物館資料の境界　―自明性への問い―
博物館資料の境界～ペルーに戻ったマチュピチュの遺物～　加藤隆浩（南山大学外国語学部教授）
藩政史料と歴史研究～旧藩主家史料の再評価～
落合弘樹（明治大学文学部教授）
人間の「展示」と植民地表象～1912 年拓殖博覧会を中心に～　松田京子（南山大学人文学部教授）
瀬戸赤津焼の「伝統」への再評価　　外山　徹
〈昭和〉をめぐる記憶の展示～昭和生活資料を展示する意味～　黒沢　浩
Ⅲ　コレクションの再生
―資源化される博物館資料―
文化の資源化と活用～アンデス民族学画像コレクションの取り組み～　加藤隆浩
コレクションの文化資源化と大学・地域博物館の連携～ジェラード・グロート神父と日本考古学研究所のコレクションを中心として～
領塚正浩（市立市川考古博物館学芸員）
収蔵庫を“発掘”する～茨城県玉里舟塚古墳の再整理事例から～　忽那敬三
旧刑事博物館初期コレクションの形成過程とその性格　日比佳代子（明治大学博物館学芸員）

6　ボランティア受入

（1）常設展解説ボランティア研修

日程	研修種別	研修内容
5/25	博物館教育	展示解説の理念と博物館教育の特性
5/25 6/ 1	考古部門１ 考古部門２ 考古部門３ 考古部門４	稲作の伝来と青銅器のマツリ 東国の古墳文化 日本の旧石器時代 縄文時代の貝塚と生業
6/ 8 6/21	商品部門１ 商品部門２ 商品部門３ 商品部門４	器物に漆を塗るという意味は？ 「～織」「～絣」「～紬」織物呼称の意味は？ 一括りにできない種別と原材料・工法（陶磁器） 竹木工・金工・文具・和紙
6/28 7/5	刑事部門１ 刑事部門２ 刑事部門３ 刑事部門４	歴史的な法の様々／高札 捕者具と江戸時代の警察制度 江戸時代の取調べと裁判 （仕置と見懲らし・さまざまな刑事博物）
2013 2/27	３部門	フォローアップ研修

（2）特別展ボランティア

①氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD
受付担当
参加者数　56 名　内　博物館友の会 55 名
リバティアカデミー会員 1 名

（3）図書室ボランティア

①友の会会員による受付管理　26 名
②在学生による書架整理　　5 名

7　情報提供

（1）印刷物

①明治大学博物館広報誌「ミュージアム・アイズ」
59 号、60 号　　各 5,000 部
②特別展・企画展印刷物
氷河時代のヒト・環境・文化
ポスター　700 枚　　ちらし　1,600 枚
入場券　3,000 枚　　招待券　7,000 枚
図　録　1,000 部
③明治大学博物館年報 2011 年度　　1,050 部
④展覧会案内 2013 年　　20,000 部

（2）報道機関等による取材

①新聞・雑誌掲載
＜明治大学博物館紹介＞『神田神保町エリア便利帳』住友商事
＜明治大学博物館紹介＞電子書籍『東京ブララブガイドブック』8 号：御茶ノ水　角川コンテンツゲート
＜明治大学博物館紹介＞月刊『生涯学習』5 月号　国政情報センター
＜明治大学博物館紹介＞『週刊現代』5/19 号　講談社
＜「夏休み いろはカルタまつり」紹介＞月刊『私立中高進学通信』6 月号　栄光
＜明治大学博物館紹介＞繊研新聞 6/29,7/6
＜地域交流事業「宮崎の歴史を学ぼう 作文コンテスト」紹介＞夕刊デイリー新聞7/6,11/12,12/8,20～22,24,25
＜明治大学博物館紹介＞「LV.S ニュース」　図書館ボランティア草加
＜内藤家文書紹介＞宮崎日日新聞 8/23
＜明治大学博物館紹介＞『手みやげを買いに【東京篇】』　京阪神エルマガジン社
＜明治大学博物館紹介＞『週刊アスキー』 アスキー・メディアワークス
＜明治大学博物館　刑事部門紹介＞『なんて面白すぎる博物館』　講談社
＜明治大学博物館　刑事部門紹介＞『ソトコト』11 月号　木楽舎
＜明治大学博物館ミュージアムグッズ紹介＞『MEN'S NON-NO』12 月号　集英社
＜地域交流事業「宮崎の歴史を学ぼう　作文コンテスト」紹介＞宮崎日日新聞 11/19
＜明治大学博物館　刑事部門紹介＞『シルフ』2013 年 1 月号　　アスキー・メディアワークス
＜明治大学博物館　刑事部門紹介＞東京新聞 12/13 中日新聞東京本社
＜明治大学博物館　刑事部門紹介＞『PERCY』 東京ビジュアルアーツ
＜地域交流事業「歴史講演会」紹介＞夕刊デイリー新聞 2/25,
＜明治大学博物館　刑事部門紹介＞『コミック乱ツインズ』４月号　リイド社
＜明治大学博物館　刑事部門紹介＞『歴史ミステリア』　竹書房
＜明治大学博物館紹介＞『東京散策乗物ガイド 2012-2013』　教材研究所

②テレビ放映
＜時田コレクション紹介＞「News every」日本テレビ
＜明治大学博物館紹介＞「石川さん情報 Live　リフレッシュ」石川テレビ
＜明治大学博物館　刑事部門紹介＞「知らなきゃよかった NEWS」　関西テレビ

③ラジオ放送・ウェブサイト・その他
＜明治大学博物館　刑事部門紹介＞「キャンパスホットウェーブ　しあ早稲田ラジオ」　エフエム茶笛
＜明治大学博物館　刑事部門紹介＞「インターネットミュージアム」　インターネットミュージアム

（3）ミュージアムショップ

①グッズ販売
ア　ミュージアムグッズの見本を展示　受付窓口で販売
イ　新商品の開発
・ クリアファイル　特別展「氷河時代のヒト・環境・文化」特製（考古）、ニュルンベルグの鉄の処女（刑事）
・ 液晶モニタークリーナー 砂川遺跡石器（考古）
・ ボールペン　土偶・顔壺（考古）
・ うちわ（昌平橋の図・刑事）
②他館の情報
大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレット・チラシを配布
③来館者の声
来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示
④友の会ブース
博物館友の会の活動報告　お知らせの掲示
⑤博物館からのお知らせ
博物館のイベント情報　報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

8　明治大学博物館友の会

①会員数　393 名　　※2013 年 3 月 31 日現在
②総会　5 月 12 日（土）
③講演会
ア　総会特別講演会「今、自然と人のかかわりの歴史・文化を考える」　5 月１２日（土）
講師　国立歴史民俗博物館館長　平川　南氏
イ　講演会「漆絵の世界」　6 月 16 日（土）
講師　漆芸家　並木　恒延氏
ウ　展覧会関連講演会「譜代大名内藤家と能楽―能楽史料としての内藤家文書―」7 月 31 日（火）
講師　延岡市内藤記念館主任学芸員 増田　豪氏
エ　「日本考古学 2012」 9 月 29 日（土）
「群馬県桐生市武井遺跡群の調査と研究」
明治大学文学部教授　安蒜　政雄氏

「愛知県保美貝塚における考古学と人類学の共同調査」
国立歴史民俗博物館准教授　山田　康弘氏
「茨城県ひたちなか市十五郎穴横穴墓群の調査」
ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
稲田　健一氏

オ　会員発表会と学芸員講演会　1月27日（日）
第一部
「縄文人と弥生人の骨の形質から考えられる生活様式」　井口　稔会員
「保命酒」　松本　慶三会員
「珍なる趣味『拓狛』とは」　吉野　忠夫会員
第二部
「千年陶都―愛知県瀬戸市の陶磁史」
明治大学博物館学芸員　外山　徹氏

カ　JAXA 特別講演会「小惑星探査機『はやぶさ』の挑戦」　3月2日（土）
講師　宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所教授/宇宙科学広報・普及主幹　理学博士
阪本　成一氏

④見学会

ア　バス見学会「南房総遺跡めぐり」6月3日（日）
同行講師　明治大学博物館学芸員 忽那　敬三氏
現地講師　木更津市教育委員会　安藤　道由氏
長柄町教育委員会　松本　昌久氏
長南町教育委員会　風間　俊人氏
市原市ふるさと文化課　大村　直氏

イ　第11回会員案内による地元見学会（バス見学会）
「相模原市を訪ねるPartⅡ」　7月1日（日）
コーディネーター　西本　志保子会員
現地講師　相模原市文化財保護課 河本　雅人氏
相模原市立博物館学芸員
河尻　清和氏・正　洋樹氏

ウ　バス見学会「舟塚山古墳測量調査＆周辺遺跡見学ツアー」
・事前学習会　8月8日（水）
・見学会　8月25日（土）
同行講師　明治大学文学部教授　佐々木　憲一氏
明治大学博物館学芸員　忽那　敬三氏
現地講師　茨城大学人文学部准教授　田中　裕氏
東京学芸大学文化財科学分野准教授
日高　慎氏

エ　第12回会員案内による地元見学会（バス見学会）
「町田市を訪ねる」　9月8日（土）
案　　内　鈴木　道忠会員
まちだ史考会　笹田　正弘氏
現地講師　町田市教育委員会学芸員
川口　正幸氏・松崎　稔氏
町田市立国際版画美術館学芸員
高木　幸枝氏

オ　博物館特別展関連行事「信州の黒曜石原産地遺跡をめぐるツアー」　10月20日（土）～21日（日）
同行講師　明治大学博物館学芸員 島田　和高氏
現地講師　諏訪湖博物館・赤彦記念館学芸員
宮坂　清氏
黒耀石体験ミュージアム
大竹　幸恵氏
案　　内　明治大学研究・知財戦略機構特任講師
橋詰　潤氏

カ　宿泊バス見学会
「富岡製糸場と北関東の遺跡をめぐる」
11月30日（金）～12月1日（土）
協　　力　都澤　純人会員
現地講師　渋沢栄一記念館解説員
篠田　鼎一郎氏
富岡製糸場総合研究センター長
今井　幹夫氏
藤岡市文化財保護課資料管理係長
軽部　達也氏
高崎市多胡碑記念館学芸員
和田　健一氏

⑤広報活動

ア　会報発行　年4回（春・夏・秋・冬）
イ　行事案内 友の会ホームページでの情報提供随時
ウ　友の会掲示板の活用、行事チラシの作成

⑥博物館への協力

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	26名
展示解説員	(火)(木)(金)	32名
氷河時代のヒト・環境・文化　受付業務	2012年10月～12月	55名

⑦学習サークル（活動原則として月1回）

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	31名	外山学芸員・森　朋久氏※1
平成内藤家文書研究会	18名	伊能秀明氏※2
工芸の会	17名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	16名	島田学芸員
弥生文化研究会	26名	忽那学芸員
草生水の会	6名	
古文書の基礎を学ぶ会	25名	日比学芸員
東アジアの中の古代日本研究会	23名	
前方後円墳研究会	14名	忽那学芸員

※1　明治大学農学部兼任講師
※2　明治大学中央図書館事務長

Ⅲ　研究活動その他

1　調査研究活動

（1）商品部門

①伝統陶磁器卸売商社調査

ア　有限会社金照堂（有田焼・2012 年 9 月 11 日）
有田における卸売商社の動向について・機械製造の現場視察

イ　株式会社キハラ（有田焼・2012 年 9 月 12 日）
資料収集候補の選定

（2）刑事部門

①内藤家文書研究の促進

ア　資料所在調査
7 月 11 日～13 日　幕長戦争関係史料調査
大浪和弥（内藤記念館学芸員）
7 月 31 日～8 月 2 日　能楽関係史料調査
増田豪（内藤記念館主任学芸員）

イ　所在調査結果をふまえた重要史料の翻刻・校訂

（3）考古部門

①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

2010 年度に黒耀石研究センターは博物館から研究・知財戦略機構に移管され、同機構付属研究施設に位置付けられた。新たに設置されたセンター員に島田学芸員が委嘱され、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ヒト-資源環境系の歴史的変遷に基づく先史時代人類誌の構築」（研究期間：2011 年度～2015 年度、研究代表者：小野昭；研究・知財戦略機構特任教授）の研究分担者となっている。関連する研究活動は以下のとおり。

ア　5 月 25 日：地球惑星科学連合 2012 年度大会（幕張メッセ）において口頭発表（H-QR23 ヒト-環境系）

イ　4 月 28 日～5 月 13 日：長野県長和町広原湿原および周辺遺跡における考古・古環境調査の実施

ウ　10 月 28 日：国際シンポジウム「先史時代における石材獲得と流通」（明治大学）において口頭発表。Proceedings へ投稿中。

エ　11 月 24 日～12 月 1 日：ハンガリー国立博物館コレクション調査及びカルパチア山脈黒曜石原産地の踏査、同行者：山田昌功。Proceeding へ投稿中。

②考古資料のインタラクティブコンテンツの制作

収蔵資料の 360°インタラクティブデジタルコンテンツを制作した。コンテンツは iOS app として制作しており、2014 年度までにコンテンツ数を順次増やし、2015 年度に iTunes U より公開する予定である。

③ウイリアム・ガウランド写真資料（寄託資料）関連資料の調査

科学研究費基盤研究（B）「ゴーランドの古墳研究の総合的検証と古墳文化に対する国際的理解への活用」（研究期間：2012 年 4 月～2016 年 3 月　研究代表者：一瀬和夫　京都橘大学教授）に忽那学芸員が研究協力者として参加。8 月 18 日～23 日の日程でガウランド墓所と大英博物館収蔵のガウランドドキュメント資料の撮影及び内容の調査を実施。

④展示方法の視察及び館蔵資料関連遺物の調査

名古屋城、名古屋市博物館、東京大学総合研究博物館、岩手県立博物館、ミホミュージアム（滋賀県）、東松山市埋蔵文化財センター、加曾利貝塚博物館、芝山古墳・はにわ博物館、睦沢町歴史民俗資料館、千葉県立中央博物館、飛鳥山博物館（北区）

⑤玉里舟塚古墳埴輪整理作業

ア　茨城県教育委員会・明治大学文学部考古学専攻・明治大学博物館の 3 者で協定を結び、報告書刊行に向けた整理作業を実施。

イ　株式会社ニコンインステック・明治大学文学部考古学専攻・明治大学博物館の 3 者で共同研究契約を締結。デジタル機器による埴輪を含む考古資料の 3 次元計測を実施（10 月 2 日、18 日、11 月 9 日、15 日、26 日、27 日、12 月 10 日、12 日、玉里史料館 12 月 13 日、茨城県立歴史館 12 月 14 日、15 日、山内芳江氏宅 1 月 9 日）

⑥前場幸治瓦資料整理作業

リスト作成、資料実測・拓本・撮影

⑦購入・寄贈資料に関わる調査

宮内庁書陵部、東海大学、いけだ古美術、去来（古美術）、繭山龍泉堂（古美術）

2　学芸員の研究業績

外山　徹

【著書】

『とっておきの高尾山』（揺籃社、2012年11月）共著

『驚きの博物館コレクション展！』（同展実行委員会、2013年2月）共著

【論文等】

「伝統的工芸品は古美術の模倣か？～旧明治大学商品陳列館における伝統的工芸品収集～」（明治大学博物館・南山大学人類学博物館編『博物館資料の再生』（岩田書院、2013年3月）

「瀬戸赤津焼の「伝統」への再評価」（同上）

島田和高

【論文等】

Kazutaka Shimada 2012 Pioneer phase of obsidian use in the Upper Palaeolithic and the emergence of modern human behavior in the Japanese Islands. In: Ono. A., and Izuho. M. (eds.), *Environmental Changes and Human Occupation in East Asia during OIS 3 and OIS2*, pp. 129-146. BAR International Series 2352, Archaeopress, Oxford, UK.

島田和高2012『2012年度明治大学博物館特別展図録 氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD』, 128p. 明治大学博物館, 東京

【学会発表】

1) 島田和高「中部高地黒曜石資源の開発と最古の黒曜石利用」日本地球惑星科学連合2012年度大会,（H-QR23 ヒトー環境系）幕張メッセ国際会議場, 2012年5月25日。
http://www2.jpgu.org/meeting/2012/session/PDF_all/H-QR23/HQR23_all.pdf

1) Kazutaka Shimada. Exploitation of obsidian sources in the central highlands and the earliest obsidian use. *Japan Geoscience Union Meeting 2012* (H-QR23 human environmental intaractions), Makuhari Messe, Chiba Pref. May 5th 2012.
http://www2.jpgu.org/meeting/2012/session/PDF_all/H-QR23/HQR23_all.pdf

2) Kazutaka Shimada. Upper Palaeolithic obsidian use in central Japan: the origin of obsidian source exploitation. *International symposium: Lithic raw material exploitation and circulation in prehistory, a comparative perspective in diverse palaeoenvironment*. Meiji University, Tokyo. October 28th 2012.

3) Kazutaka Shimada. Activities of prehistoric hunter-gatherers around obsidian sources in central Japan. *Archaeometry Workshop*. Hungarian National Museum, Budapest, Hungary. November 26th 2012.

日比佳代子

【論文】

「旧刑事博物館初期コレクションの形成過程とその性格」明治大学博物館・南山大学人類学博物館編『博物館資料の再生』（岩田書院、2013年3月）

忽那敬三

【著書】

『驚きの博物館コレクション展！』（同展実行委員会、2013年2月・共著）

【論文等】

「ゴーランドが見た古墳と明治期の日本－記録類と写真から－」（『古代学研究』196、2012年12月）

「歴史資料としての贋作」明治大学博物館・南山大学人類学博物館編『博物館資料の再生』（岩田書院、2013年3月）

「収蔵庫を“発掘”する－茨城県玉里舟塚古墳の再整理事例から」（同上）

【学会発表】

「玉里舟塚古墳の埴輪とその問題」（茨城県考古学協会、2012 年 5 月）

【短報】

「大学博物館がおもしろい！“都心で学ぶ”明治大学博物館」（『月刊生涯学習』2012年5月）

【講演等】

「埴輪の人物群像」（明治大学リバティアカデミー古代学研究の最前線Ⅷ　2012年6月）

「古墳時代の地震」（古代学研究の最前線Ⅷ　2012年7月）

「明治大学の考古学と大学博物館」（群馬県みどり市岩宿博物館、2012年5月）

3　刊行物

①『明治大学博物館研究報告』第 18 号　1,100 部

＜研究報告＞

橘　昌信・多田　仁「西南日本における船野系細石刃石器群の形成と展開」

森　朋久「茨城県五霞町域にみる歴史民俗資料データベース化に基づく地域博物館展示製作シミュレーション」

＜資料報告＞

金成太郎・杉原重夫「藪塚遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定」

森本尚子「明治大学博物館所蔵の遼瓦について－島田正郎コレクションから－」

忽那敬三「玉里舟塚古墳の副葬品と年代」

＜研究プロジェクト報告＞

増田　豪「能楽史料としての内藤家文書」

＜公開特別講義抄録＞

「有田焼商品開発のターニングポイント―産地卸売商社から見た市場動向の変化―」

②特別展図録『氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD』 128 頁　1,000 部
著者：島田和高　　発行：明治大学博物館

4　大久保忠和考古学振興基金

（1）募集要項

この基金は、本大学文学部史学地理学科考古学専攻第 41 期卒業生の故大久保忠和氏の遺志を生かすため、ご遺族から寄せられた指定寄付金をもとに設置されました。基金は、考古学および博物館にかかわる、優れた調査・研究を奨励することにより、考古学の振興および博物館の発展に寄与することを目的としています。

2012 年度の募集要項は、以下のとおりです。

1. 対象となる研究

考古学および博物館にかかわる調査と研究。

2. 応募資格および条件

本学の考古学専攻在籍者（大学院生に限る）・考古学専攻卒業生・教職員・博物館友の会会員および関係者が推薦する者。友の会会員の場合は、入会から3年以上を経過した会員を対象とします。なお、本奨励金は、主に科学研究費補助金等の公的助成金に申請資格を有さない研究者の支援を趣旨としています。

3. 奨励金額

公募研究A：個人による調査と研究に対する奨励

A－1：研究期間 1 年間（交付から 2013 年 3 月まで）
　　1件20万円以内とします。

A－2：研究期間 2 年間（交付から 2014 年 3 月まで）
　　1件40万円以内とします。

公募研究B：複数の研究者による共同の調査と研究に対する奨励

B－1：研究期間 2 年間（交付から 2014 年 3 月まで）
　　1件100万円以内とします。

B－2：研究期間 3 年間（交付から 2015 年 3 月まで）
　　1件200万円以内とします。

4. 審査と交付

本学博物館に設置されている大久保忠和考古学振興基金運営委員会において、研究計画調書の内容にもとづいて厳正に審査・選考した上で、2012 年 5 月下旬までに応募者に採否および奨励金額を通知し、採択者には 6 月上旬までに博物館にて奨励金をお渡しいたします。日時はあらためて通知します。なお、採否の理由についての照会には、一切回答いたしかねますのでご了承下さい。また、本奨励金は個人所得となりますので、所得税源泉徴収後の金額が支給金額となります。

5. 研究成果について

本基金による調査・研究の成果については、下記のように報告・公表することが義務となります。

（1）行った研究に関する概要レポート（A4判で1枚程度）を交付から単年度ごと（当該年度の 3 月末日まで）に博物館事務室まで提出して下さい。

（2）研究期間の終了後、1年以内に下記の刊行物等で研究成果を発表して下さい。

①『駿台史学』『明治大学博物館研究報告』等の学内学術刊行物（投稿規程がありますので、事前にご一報ください）

②学外の考古学・博物館学関係の学術雑誌・研究紀要もしくは単行本等

※いずれの場合でも「2012年度明治大学大久保忠和考古学振興基金」の成果であることを明記して下さい。

※なお、単行本など冊子体での成果報告を行う場合、本基金にもとづく「研究成果刊行助成金」（200万円以内）を別途設けています。詳細は、下記連絡先までお問い合わせください。

（3）掲載誌等（抜刷可）を 2 部提出して下さい。

（4）支出した経費内訳一覧とこれに対応する旅費交通費を含む領収書（コピー可）を研究期間終了後 1 ヶ月以内に博物館事務室に提出してください。

6. 応募期間

2012 年 3 月 22 日（木）～4 月 19 日（木）必着

7. 申し込み方法

所定の研究計画調書様式に必要事項を記入・押印のうえ、上記期間内に下記あてに郵送していただくか、もしくはご持参下さい。研究計画調書様式は適宜 PC で作成していただいて結構ですが、電子版をご用命の方は、下記 e メールアドレスまでご連絡ください。

なお、ご不明な点は、明治大学博物館　忽那敬三（考古部門担当学芸員）までお問い合わせ下さい。

〒101－8301　東京都千代田区神田駿河台1－1
明治大学博物館大久保忠和考古学振興基金運営委員会事務局宛
TEL 03－3296－4431,4448　FAX 03－3296－4365
e-mail：ma04027@mics.meiji.ac.jp（忽那）

（2）2012 年度奨励者

A　公募研究（単独）

A－1（個人研究　研究期間：1 ヵ年）なし

A－2（個人研究　研究期間：2 ヵ年）

岩田　薫「奈良・平安時代における土器生産体制（関東の場合）」

宮内慶介「奥東京湾地域における縄文時代土器製塩の展開」

B　公募研究（共同）

B－1（共同研究　研究期間：2 ヵ年）

浅見恵理（研究代表者）「ペルー中央海岸チャンカイ文化の形成過程に関する基礎的研究」

川道　寛（研究代表者）「列島西端部における更新世終末から完新世初頭石器群の構造変動に関する研究」

三木　弘（研究代表者）「埴輪生産の波及と地域権力構造に関する実証的研究」

B－2（共同研究　研究期間：3 ヵ年）

大坂　拓（研究代表者）「東北日本における農耕の受容と衰退－弥生時代における環境変動・自然災害と人類」

50 回を数えた考古学ゼミナール（p15）

商学部との連携による公開特別講義（p16）

内藤家文書交流事業　友の会と共催の講演会（p17）

同　作文コンテスト表彰式（p17）

漆芸の実演講演会　友の会主催（p19）

友の会主催の見学会（p20）

Ⅳ 収 蔵 資 料

（1）資料収集

①資料数(部門別)

		刑事	考古	商品	合 計
受入	購入	14	7	10	31
	受贈	17	6	3	26
合計		31	13	13	57
前年度総数		214,781	78,666	7,804	301,251
資料総数		214,812	78,679	7,817	301,308

②購入資料一覧

種別・分類	資料名
刑事関係 器物	鋸刃風刃付突棒
刑事関係 外国書絵図	刑罰図（磔・切腹等日本の事例を描く）
刑事関係 和書・古文書	刑罪大秘録（彩色本） 刑罰大秘録（彩色本） 刑罪大秘録（土壇の図入り） 制札之次第上・下 石居流縄目録・石居流責方免許 衡門類例秘録 敵討ち瓦版（4 点）
錦絵	東京裁判所之真図 里見八犬伝之内芳流閣之図
考古遺物 （レプリカ制作）	ケサイ頭骨レプリカ
考古遺物	大川清氏旧蔵瓦 （①雲文円瓦当：朝鮮・楽浪、②丸瓦：中国・燕、③半瓦当：中国・燕） 琴柱形石製品 銅鐸 銅戈
商品資料	株式会社キハラ企画商品 有田HOUEN シリーズ　普段使いの器 丸皿大小、捻り徳利、枯山水角深鉢、パスタ皿 有田HOUEN シリーズ　有田四様 初期伊万里様式雨紋そば猪口、柿右衛門様式風紋取皿、鍋島様式椿紋大皿、古伊万里様式鷹紋取皿

③受贈資料

資料名
木津屋平左衛門客船覚帳類一式（16 点） 明治大学五十年史（1 冊）
タイプライター（ROYAL McBee 社製） 天然記念物片シボ竹見本 畑萬陶苑製有田焼青海波秋草文湯呑
軒丸瓦(伝姫路城瓦焼成窯製品) 軒平瓦(伝姫路城瓦焼成窯製品・2 点) 鉄釘(2点) ケサイ化石標本(下顎部)

④寄託資料　※契約書締結は 2013 年 4 月

故里見庫男氏収集文書　3373 点及び未整理史料一括

福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の旧領地域。地元の郷土史研究団体(いわき地域史学会)及び本大学大学院文学研究科日本史学専攻生等による調査・整理作業がおこなわれた資料群の受入準備。

⑤資料修復

本年度該当なし

（2）資料整理

①商品部門

ア　2011 年度収蔵資料カード台帳作成

イ　収蔵資料所在調査・再配架（染織品・竹木工品）

ウ　時田ことわざコレクション受入台帳への分類番号記入と並べ替え

②刑事部門

ア　内藤家文書断簡史料整理、近代史料目録の校訂

イ　マイクロフィルム等２次資料整理

ウ　購入資料の棚卸し作業及びラベルの更新（名和コレクション）

エ　購入資料未配架分の保存容器製作

オ　購入資料未配架分の分類整理

③考古部門

ア　坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備

イ　茨城県舟塚古墳出土埴輪資料の整理

ウ　ガラス乾板の保存処置

エ　収蔵資料の所在確認

オ　前場幸治瓦コレクションの整理（明治大学古代学研究所と共同作業）

カ　矢島恭介資料の整理（点数・内容確認）

（3）資料記録

①撮影

ア 商品部門

・名古屋合同展資料商品部門資料 6 カット 14 点

・同時田コレクション 2 カット 4 点

イ 刑事部門

・名古屋合同展資料 19 カット 19 点

ウ 考古部門

・前場資料撮影 2370 カット

・名古屋合同展資料 15 カット 20 点

・コンテンツ用立体撮影 7 点

②デジタル化

ア 考古部門

・TIFFデータのJPEGデータ移行 5409 点

・スライドのJPEGデータ化 48 点

・デジタルコンテンツ製作

収蔵資料の 360° インタラクティブデジタルコンテンツの制作。コンテンツは iOS app として制作しており、2014 年度までにコンテンツ数を順次増やし、2015 年度に iTunes U より公開する予定である。

（4）資料利用

①資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事	考古	商品	合 計
一次資料出品数	7 点	1158 点	—	1165 点
レプリカ等出品数	0 点	20 点	—	20 点
掲載等	367 点	337 点	—	704 点
撮影	1923 点	26 点	—	1949 点
合 計	174 件 2297 点	102 件 1541 点	— —	276 件 3838 点

②収蔵資料閲覧

	刑事部門		考古部門
調 査	古文書	マイクロ	77 件
閲 覧	6398 点	33 リール	
人 数	116 名		

③貸出先・展覧会・出展資料一覧

ア 刑事部門

a 延岡市内藤記念館

「能面のような表情！？～内藤家旧蔵の能面～」展

展示期間：2012 年 9 月 15 日～10 月 14 日

内藤家文書 1-7-38-2「寛延三年 万覚帳」 他 計 7 点

イ 考古部門

a 市立市川考古博物館

常設展示

貸出期間：2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器 他 計 80 点

b 茨城県立歴史館

平成 24 年度特別展Ⅰ「霞ヶ浦と太平洋のめぐみ―塩づくり―」

展示期間：2012 年 10 月 13 日～11 月 25 日

茨城県法堂遺跡出土製塩土器 他 計 28 点

c 岩手県立博物館

第 63 回企画展「土偶まんだら」

会期：2012 年 7 月 14 日～8 月 19 日

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 他 計 3 点

d 岩宿博物館

岩宿博物館 2 階常設展示室に展示

展示予定期間：2012 年 6 月 5 日～11 月 18 日

重要文化財 群馬県岩宿遺跡出土品 計 40 点

e 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室（「岩宿時代のムラと社会」・「岩宿文化の地域性」のコーナーに展示）

貸出期間：2012 年 7 月 1 日～2013 年 6 月 30 日

群馬県武井遺跡出土石器 他 計 330 点

f 浅間縄文ミュージアム

企画展「旧石器時代の終末を彩るミニ石器―細石刃」会期：2012 年 7 月 7 日～10 月 8 日

長野県矢出川遺跡出土細石刃 他 計 71 点

g 大和市つる舞の里歴史資料館

企画展「地下（マイナス）5mの世界 ―再発見・月見野遺跡群」

開催期間：2012 年 7 月 28 日～9 月 23 日

神奈川県月見野遺跡群出土資料 他 計 228 点

h 秋田県立博物館

特別展「アンダー×ワンダー！―北東北の考古学最前線―」

会期：2012 年 9 月 22 日～11 月 25 日

青森県金木遺跡出土偽石器 他 計 2 点

i 岩宿博物館

第 54 回企画展「人が動く、時代も動く―東日本の細石器文化を追う―」

展示期間：2012 年 10 月 6 日～11 月 25 日

北海道白滝服部台遺跡出土石器 他 計 96 点

j 松戸市立博物館

平成 24 年度企画展「東日本の古墳と渡来文化―海を超える人とモノ―」

資料展示期間：2012 年 10 月 6 日～11 月 25 日

長野県大室古墳群ムジナゴーロ単位支群第 168 号墳出土資料 計 6 件 15 点

k 福島県文化財センター白河館（まほろん）

平成 24 年度ふくしま里帰り展「ふくしま考古学研究の春暁―棚倉式土器の発見・新地貝塚の発掘―」

貸出期間：2012 年 9 月 25 日～12 月 13 日

福島県崖ノ上遺跡出土資料 他 計 50 点

l 國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館

企画展「身体に見立てられた土器」

展示期間：2013 年 2 月 26 日～3 月 30 日

栃木県出流原遺跡出土顔面付土器複製品 計 1 点

m 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

総合展示「日本文化のあけぼの」
期間：2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日
佐賀県茶園原遺跡出土尖頭器　　計 10 点
n　岩手県立博物館
岩手県立博物館常設展示
貸出期間：2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日
岩手県雨滝遺跡出土資料　　計 29 点
o　港区教育委員会
港区立港郷土資料館　常設展示
貸出期間：2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日
東京都芝公園出土須和田式壷形土器 他 計 109 点
p　市立市川考古博物館
常設展示
貸出期間：2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日
佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器　他　　計 80 点

④資料利用一覧
ア　刑事部門
静岡県立中央図書館
静岡県立中央図書館歴史文化情報センター内および学校での公開・利用
今川仮名目録　　計 2 点
イ　考古部門
岩宿博物館
岩宿博物館及び他の博物館での展示に供するため、岩宿博物館所蔵の岩宿遺跡出土石器複製を原型として複製製作
群馬県岩宿遺跡出土石器　　計 6 点

⑤掲載一覧
＜名和コレクション　御用提灯　南町奉行所　他＞安藤優一郎ほか　歴史群像シリーズ特別編集『図説大江戸犯科帳』　学研パブリッシング
＜『徳川幕府刑事図譜』　引廻しの図＞「謎解き！江戸のススメ」#6　BS-TBS
＜内藤家文書　1-22-26　久保田御領検地ニ付万覚書他＞『昔の窪田』　窪田地区振興会
＜板倉家文書＞「亀山市史」ウェブ版　亀山市
＜地方測量之図＞「見える歴史」　NHK 教育テレビ・NHK オンライン
＜内藤家文書　「五十三次ねむりの合いの手」　他＞神崎直美「日向国延岡藩内藤充真院の旅日記から見るその関心と人物像（１）」(『城西経済・経営紀要』30 号）　城西大学
＜ニュルンベルクの鉄の処女　他＞『最新版　世界の処刑と拷問』　笠倉出版社
＜『徳川幕府刑事図譜』　強盗配分の図　他＞『隔週刊　鬼平犯科帳 DVD コレクション』48 号　デアゴスティーニ・ジャパン
＜地方測量之図＞「小学校社会科テスト　6 年 2 学期」評価問題研究所
＜『徳川幕府刑事図譜』　拷問の図（石抱責もしくは算盤責）＞「謎解き！江戸のススメ」#10　BS-TBS
＜吉永村文書　14-甲 Y-11　他＞宇佐美龍夫編『日本の歴史地震史料』拾遺五　東京大学地震研究所
＜『徳川幕府刑事図譜』　旧江戸市内自身番の図　他＞『ゼロからわかる　江戸の暮らし』　学研パブリッシング
＜長宗我部元親百箇条＞「歴史発見　城下町へ行こう！」　BS 朝日
＜『徳川幕府刑事図譜』　捕縛の図（凶悪犯のはしご捕り）＞『よみがえる江戸』　双葉社
＜『牢内深秘録』　他＞「謎解き！江戸のススメ」#16　BS-TBS
＜高札　太政官札　キリシタン禁制（慶応４年）＞2012年度後期（高3・高卒生対象)「日本史写真資料集」　河合塾
＜生類憐み令＞『週刊歴史のミステリー』20 号（再販紙書籍・電子書籍）　デアゴスティーニ・ジャパン
＜『徳川幕府刑事図譜』　日本橋晒の図　他＞Jöerg Wettlaufer　Yasuhiro Nishimura 共著「Shame between punishment and penance」Firenzesismel-Edizioni del Galluzzo, Italy.
＜往古うハなり打の図＞「タイムスクープハンター修羅場！決戦の妻たち」　NHK オンデマンド
＜『徳川幕府刑事図譜』　拷問の図（釣責）　他＞オフィス五稜郭編『日本残酷物語』　双葉社
＜内藤家文書　1-23-641　牛馬皮方覚＞高垣亜矢「近世西日本における皮革流通と皮商人―手代・手先の活動をめぐって―」(『史学雑誌』121 編第 10 号）　史学会
＜『徳川幕府刑事図譜』　日本橋晒の図＞『週刊歴史のミステリー』22 号（再販紙書籍・電子書籍）　デアゴスティーニ・ジャパン
＜株仲間鑑札＞『週刊歴史のミステリー』25 号（再販紙書籍・電子書籍）　デアゴスティーニ・ジャパン
＜生麦発殺之図＞月刊『歴史人』9 月号　KK ベストセラーズ
＜内藤家文書　3-11-42　「服忌令」＞週刊『日本の 100 人』46 号／徳川綱吉　デアゴスティーニ・ジャパン
＜出羽国村山郡山口村文書＞林進一郎「百姓一揆の保障システムとその変容―南奥羽を中心として―」（『講座　東北の歴史』第一巻）　清文堂出版
＜今川仮名目録＞「BS 歴史館　＃50　桶狭間の戦い」NHK　BS プレミアム
＜長宗我部元親百箇条＞洋泉社 MOOK『歴史 REAL　戦国武将入門』　洋泉社
＜今川仮名目録　他＞『歴史人』10 月号「戦国武将の勢力図」特集号　KK ベストセラーズ
＜薩州屋敷焼撃之図（慶応３年新徴組）他＞木村幸比古『図説　戊辰戦争』　河出書房新社
＜生麦発殺之図＞『歴史人』別冊「幕末維新の真実」KK ベストセラーズ
＜『徳川幕府刑事図譜』　敲仕置の図＞「謎解き！江戸のススメ」#26　BS-TBS
＜『徳川幕府刑事図譜』　旧江戸品川鈴ヶ森刑場の図他＞大石学『大江戸「事件」歴史散歩』　中経出版
＜地方測量之図＞週刊『日本の 100 人』58 号／伊能忠敬　デアゴスティーニ・ジャパン
＜法政誌叢 104 号（明治 23 年 3 月 25 日発兌）＞星野通編著『民法典論争資料集』[復刻増補版]　日本評

論社
＜刑罪大秘録＞『ＮＨＫ歴史秘話ヒストリア　歴史にかくされた知られざる物語 5　明治時代～昭和編』金の星社
＜武蔵国幡羅郡四方寺村文書＞栗原健一「近世土豪百姓の土地所持と村外分家の創出―武蔵国幡羅郡四方寺村吉田六左衛門家を事例に―」(『関東近世史研究会五十周年記念論集 1』)　岩田書院
＜株仲間鑑札＞「謎解き！江戸のススメ」#31　BS-TBS
＜刑罪大秘録　他＞「謎解き！江戸のススメ」#30　BS-TBS
＜名和コレクション　江戸町方同心捕者出役長十手　他＞TOWN MOOK『大江戸悪人列伝』　徳間書店
＜口上之覚　生類憐み令＞「謎解き！江戸のススメ」#33　BS-TBS
＜『徳川幕府刑事図譜』　獄門の図　他＞『世界残虐処刑史』　双葉社
＜内藤家文書　内藤充真院繁子道中記「五十三次ねむりの合いの手」＞ドキュメント九州「鮎やな師」　テレビ宮崎
＜鑑札　株仲間札＞詳説日本史図録編集委員会『詳説日本史図録』第 6 版　山川出版社
＜金玉均氏遭難事件＞『図説　明治の宰相』　河出書房新社
＜名和コレクション　突棒・刺又・袖搦＞『ビジュアル　侍図鑑』第 2 巻「侍のしごと」　ベースボール・マガジン社
＜内藤家文書　1-28-2　日向国宮崎郡寺社並山伏二、三、四号　延享四・八＞前田博仁「船引正賢院とその配下山伏延龍院（仮)」『みやざき民俗』65 号　鉱脈社
＜内藤家文書　1-28-7　社人修験面附　文政二・五改　他＞前田博仁『近世日向における修験道（仮)』
＜水戸藩小石川御屋敷御庭之図＞別冊太陽『大名庭園』　平凡社
＜高札　徒党逃散禁制　他＞週刊『日本の 100 人』70 号/田沼意次　デアゴスティーニ・ジャパン
＜『刑典秘抄』　石抱＞「ビクトリー　中学社会版」（ネット配信）　学研エデュケーショナル
＜禁中並公家中諸法度　他＞「謎解き！江戸のススメ」#40　BS-TBS
＜『徳川幕府刑事図譜』　白洲の図＞石井良助『江戸の刑罰』(読みなおす日本史シリーズ) 吉川弘文館
＜『徳川幕府刑事図譜』　切腹の図　他＞『Discover Japan』2 月号　枻出版社
＜鑑札　株仲間札＞『謎解き！江戸のススメ』　NTT 出版
＜錦絵　大岡政談天一坊実記＞洋泉社 MOOK『歴史 REAL 大江戸暮らし入門』　洋泉社
＜『徳川幕府刑事図譜』　敲仕置の図　他＞「謎解き！江戸のススメ」#42　BS-TBS
＜生麦発殺之図＞歴史人別冊『新選組の真実』　ベストセラーズ
＜『徳川幕府刑事図譜』　日本橋晒の図＞永井義男『図説　吉原事典』　学研パブリッシング
＜地方測量之図＞2013 年度版『社会 4 年デイリーサピックス　440-08』　日本入試センター
＜鑑札　株仲間札＞「さかのぼり日本史　江戸“天下泰平”の礎　第 2 回　飢饉が生んだ大改革」NHK オンデマンド
＜水戸藩小石川御屋敷御庭之図＞佐竹真一「小石川後楽園における園路についての一考察」　（京都造形芸術大学通信教育部ランドスケープデザイン卒業論文）
＜生麦発殺之図　他＞「タイムスクープハンター　スペシャル　幕末決死行！～江戸牢獄・限界長屋の実態～」　NHK（海外放送局等に提供）
＜『徳川幕府刑事図譜』　旧江戸伝馬町牢獄内　昼の図　他＞小寺雅夫『会津屋八右衛門』　文芸社
＜名和コレクション　鉄製目明し十手　他＞『歴史人別冊　江戸の暮らし大全』　KK ベストセラーズ
＜地方測量之図＞『台東区歴史・文化テキスト』改訂版　台東区教育委員会
＜内藤家文書　増補追加（4）-老中等奉書 3-559　御台所女房口上書　他＞石田俊「綱吉政権期の江戸城大奥―公家出身女中を中心に―」(『総合女性史研究』30 号)　総合女性史研究会
＜『刑罪大秘録』　引廻行列＞水平社博物館第 16 回特別展「部落の歴史をまなぶ―差別ってなんだろう？―」パネル展示
＜内藤家文書　内藤充真院「五十三次ねむりの合いの手」＞渡邉博吏「延岡ばんば踊りに関する一考察」(『九州保健福祉大学博物館学年報』２)　九州保健福祉大学学芸員養成課程
＜内藤家文書　内藤充真院「五十三次ねむりの合いの手」＞『延岡の芸能―延岡市郷土芸能調査報告書―』延岡市郷土芸能保存会
＜会津若松戦争之図＞週刊『日本の 100 人』71 号／松平容保　デアゴスティーニ・ジャパン
＜鎖鎌（石見守直次作）＞ネットミュージアム兵庫文学館　企画展示「宮本武蔵　力と美」
＜『徳川幕府刑事図譜』　斬罪仕置の図　他＞「ライバルたちの光芒」#25　BS-TBS
＜口上之覚　生類憐み令＞「謎解き！江戸のススメ」#48　BS-TBS
＜『徳川幕府刑事図譜』　白洲の図＞「最高裁判所　司法制度解説 DVD ビデオ」　最高裁判所
＜『徳川幕府刑事図譜』　白洲の図＞『週刊歴史のミステリー』47 号改訂版（紙版／電子書籍版）　デアゴスティーニ・ジャパン
＜『徳川幕府刑事図譜』　捕縛の図（凶悪犯のはしご捕り）＞『週刊歴史のミステリー』55 号改訂版（紙版／電子書籍版）　デアゴスティーニ・ジャパン
＜往古うハなり打の図＞NHK「タイムスクープハンター」制作チーム『タイムスクープハンター』　河出書房新社
＜地方測量之図＞「小学校社会科テスト　2 学期 6 年」評価問題研究所
＜『徳川幕府刑事図譜』　捕縛の図（十手の使用法）他＞『歴史探偵』　竹書房
＜山崎大合戦之図（鳥羽伏見の戦）慶応 4 年正月＞毛利宏嗣『夜明けの雪』　郁朋社

＜鑑札　株仲間札＞電子書籍『謎解き！江戸のススメ』　ビデオプロモーション
＜元和 6 年 8 月 20 日付徳川秀忠黒印状＞『柳川市史史料編Ⅱ　荘園（三潴荘・瀬高荘）史料／田中（吉政・忠政）期史料』　柳川市
＜地方測量之図＞NHK デジタル教材「NHK for school」
＜高札　人倫等定（明治 4 年 12 月）＞鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』　山川出版社
＜ニュルンベルクの鉄の処女＞「知らなきゃよかったNEWS」　関西テレビ
＜群馬県岩宿遺跡出土石器　他＞「ビクトリー　中学社会版」（ネット配信）　学研教育出版
＜神奈川県大丸遺跡出土尖底深鉢　他＞『時代の流れがよくわかる！歴史なるほど新聞』　ポプラ社
＜群馬県岩宿遺跡出土打製石斧　他＞2013 年度 1 学期（中 1 生対象）『ハイジャンプテキスト中 1 社会』・2013 年度前期（高 3・高卒生対象）『日本史写真資料集』　河合塾
＜東京都茂呂遺跡出土ナイフ形石器　他＞NHK教育映像のインターネット配信
＜群馬県武井遺跡出土打製石器＞『出るナビ　中学歴史』　学研教育出版
＜茨城県法堂遺跡出土縄文土器　他＞平成 24 年度特別展「霞ヶ浦と太平洋のめぐみ　―塩づくり―」図録　茨城県立歴史館
＜京都府深草遺跡出土石包丁＞『サマー練成　中 3 社会』塾用問題集　学書
＜群馬県岩宿遺跡遠景（鹿の川沼から）＞機関紙「オリジン」65 号　岩宿博物館
＜群馬県武井遺跡出土尖頭器＞「小 6 社会　夏期講習演習問題とホームタスク」　市進
＜千葉県江原台遺跡出土山形土偶　他＞岩手県立博物館第 63 回企画展「土偶まんだら」図録等
＜京都府深草遺跡出土石包丁＞『カミング　5 科合本中 3』塾用問題集　学書
＜京都府深草遺跡出土石包丁＞『カミング　理社合本中 3』塾用問題集　学書
＜京都府深草遺跡出土石包丁＞進研ゼミ中学講座「中 2　実力診断マークテスト」（本誌）【歴史】　ベネッセコーポレーション
＜岩手県雨滝遺跡出土石匙＞『2013　駿台大学入試完全対策シリーズ　大学入試センター試験実戦問題集　日本史 B』　駿台文庫
＜東京都茂呂遺跡出土茂呂型ナイフ形石器　他＞戸沢充則『道具と人類史』　新泉社
＜群馬県岩宿遺跡出土石斧＞『ググっとぐんま観光キャンペーン　総合ガイドブック』　ググっとぐんま観光宣伝推進協議会
＜愛知県五貫森貝塚出土打製石器＞『Ⅱ期ゼミ』塾用教材　ティエラコム
＜福岡県板付遺跡出土壺形土器＞「中高一貫講座　平成 24 年度　中 1 チャレンジ　英数国理社 8 月号」ベネッセコーポレーション
＜群馬県岩宿遺跡発掘調査風景　他＞「岩宿人のくらしをさぐる学習シート」　岩宿博物館
＜神奈川県夏島貝塚貝層断面　他＞『新横須賀市史』通史編　自然・原始・古代・中世販促用チラシ　横須賀市
＜千葉県姥山貝塚人骨出土状態写真＞「姥山貝塚公園内解説パネル」
＜伝東京都芝公園出土弥生土器実測図＞港区立港郷土資料館『港区考古学ブックレット 4　港区の弥生時代』　港区教育委員会
＜神奈川県月見野遺跡発掘調査風景　他＞企画展「地下（マイナス）5mの世界　―再発見・月見野遺跡群」制作物
＜埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器　他＞中山良昭『スラスラ読めて丸わかり日本史』　新星出版社
＜青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶＞『ウインター練成　実戦編　中 3 社会』塾用問題集　学書
＜福岡県板付遺跡出土壺形土器　他＞平成 25 年度『進研ゼミ中学講座　中 1・中 2 チャレンジ社会』紙媒体教材及び WEB 教材　ベネッセコーポレーション
＜千葉県法皇塚古墳石室全景　他＞秋期企画展「赤羽台古墳群に眠る人々―石と埴輪から探る東国古墳文化―」展示図録等　北区飛鳥山博物館
＜群馬県岩宿遺跡Ｂ地点第 2 回本調査時の写真＞藤巻幸男・神谷佳明『群馬の遺跡を訪ねて』　みやま文庫
＜神奈川県大丸遺跡出土撚糸文土器　他＞井口直司『縄文土器ガイドブック』　新泉社
＜長野県大室古墳群ムジナゴーロ単位支群第 168 号墳出土資料＞平成 24 年度企画展「東日本の古墳と渡来文化―海を超える人とモノ―」展示図録等　松戸市立博物館
＜福島県崖ノ上遺跡出土資料　他＞福島県文化財センター白河館（まほろん）「ふくしま考古学研究の春暁―棚倉式土器の発見・新地貝塚の発掘―」図録等
＜群馬県岩宿遺跡出土打製石器＞『小学社会歴史　暗記の天才』　学研教育出版
＜愛知県西志賀遺跡出土弥生土器　他＞井口直司『縄文土器ガイドブック』　新泉社
＜栃木県藤岡貝塚出土深鉢形土器レプリカ　他＞『文化財総合カタログ』　第一合成
＜群馬県岩宿遺跡の試掘調査　他＞「古代東国サミット」ポスターセッション
＜神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器　他＞『Ⅱ期ゼミ中 1 社会』塾用問題集　ティエラコム
＜福岡県板付遺跡出土壺形土器＞平成 25 年度『進研ゼミ中学講座　中 2　5 教科パーフェクト事典』ベネッセコーポレーション
＜群馬県岩櫃山鷹ノ巣岩陰遺跡出土壺　他＞設楽博己『遺跡から調べよう！（2）弥生時代』　童心社
＜青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶＞『2012　中学準備講座』塾用問題集　野田塾
＜青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶＞『2013 年度　受験版　プレ入試合格突破ゼミ』塾用問題集　茨進
＜群馬県岩宿遺跡出土石斧＞岩宿博物館オリジナルクリアファイル
＜神奈川県夏島貝塚出土撚糸文土器　他＞勅使河原彰　シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊 03『縄文時代ガイ

ドブック』　新泉社
＜岩手県雨滝遺跡出土磨製石器　他＞『2012/2013 高２センター模試』　高宮学園　代々木ゼミナール
＜千葉県姥山貝塚出土土偶＞小川忠博『縄文美術館』平凡社
＜神奈川県夏島貝塚出土深鉢形土器＞『小学二年生』２月号　小学館
＜福岡県板付遺跡出土壺形土器＞平成 24 年度　進研ゼミ中高一貫講座『中１チャレンジ　３月号開幕号』ベネッセコーポレーション
＜群馬県岩宿遺跡出土石器＞新人物文庫『群馬県謎解き散歩』　新人物往来社
＜福岡県板付遺跡出土弥生土器＞平成 25 年度　進研ゼミ中学講座『中１　定期テスト　予想問題集』･『平成 25 年度　進研ゼミ中学講座　中２　定期テスト予想問題集』　ベネッセコーポレーション
＜福岡県板付遺跡出土弥生土器＞平成 25 年度　進研ゼミ中高一貫講座『難関私立　定期テスト　予想問題集』　ベネッセコーポレーション
＜青森県亀ヶ岡遺跡出土深鉢　他＞青森県史編さん考古部会『青森県史　資料編　考古２　縄文後期・晩期』　青森県
＜千葉県姥山貝塚埋葬人骨群　他＞設楽博己『遺跡から調べよう！　(1)旧石器・縄文時代』　童心社
＜北海道白滝服部台遺跡出土剥片＞藤山龍造「“利器としての剥片”から考えるためにーその認識に向けてー」『駿台史学』147 号　駿台史学会
＜福岡県板付遺跡出土壺形土器＞平成 25 年度進研ゼミ中学講座『入試によく出る基礎　社会』　ベネッセコーポレーション
＜栃木県篠山貝塚出土縄文土器＞『Ⅲ期ゼミ　小６社会　理科合本』塾用問題集　ティエラコム
＜栃木県出流原遺跡出土顔面付土器＞企画展「身体としての土器」リーフレット等　國學院大學学術資料館
＜神奈川県月見野遺跡発掘調査風景　他＞ビデオ作品「月見野で君に出会う　～やまと歴史ロマン街道～」　大和市遺跡･歴史施設 PR 事業実行委員会　大和市役所イベント観光協会
＜北海道白滝服部台遺跡出土細石刃＞『アカデミア世界史』･『ニューステージ世界史詳覧』　浜島書店
＜千葉県千代田遺跡出土打製石斧　他＞『マイベストよくわかる日本史』　学研教育出版
＜静岡県登呂遺跡出土田下駄＞『2013　第１回　全国センター模試　日本史 B』　代々木ゼミナール
＜群馬県岩宿遺跡発掘調査状況＞長野県埋蔵文化財センター30 周年記念誌『掘ってわかった信州の歴史』他　長野県埋蔵文化財センター
＜群馬県岩宿遺跡発掘風景＞『ぐんまがいちばん！』（群馬の魅力 PR パンフレット）群馬県（企画部企画課ぐんまイメージアップ推進室）
＜福岡県板付遺跡出土壺形土器＞平成 25 年度　進研ゼミ中学講座『中 1 チャレンジ　英数国理社　8 月号【歴史専修／地歴並行】』　ベネッセコーポレーション
＜福岡県板付遺跡出土壺形土器＞平成 25 年度　進研ゼミ中高一貫講座『中１チャレンジ　英数国理社　8 月号』　ベネッセコーポレーション
＜群馬県岩宿遺跡出土局部磨製握槌＞『姫路市史第 1 巻下　本編考古』　姫路市
＜神奈川県夏島貝塚貝層断面　他＞中学校社会科副読本『郷土横須賀』横須賀市教育委員会
＜神奈川県月見野遺跡出土尖頭器　他＞『2014 マーク式総合問題集　日本史 B』　河合出版
＜神奈川県大丸遺跡出土早期尖底深鉢土器　他＞『一冊でわかる　イラストでわかる　図解古代史』　成美堂出版
＜栃木県出流原遺跡出土顔面付土器＞企画展「身体としての土器」ポスター　國學院大學学術資料館
＜茨城県舟塚古墳出土力士形埴輪＞「平成 25 年度茨城県立歴史館展示・行事案内」　茨城県立歴史館
＜群馬県岩宿遺跡発掘調査写真　他＞岩宿博物館開館 20 周年記念・群馬県古代東国文化周知事業シンポジウム「岩宿遺跡とその時代」リーフレット　岩宿博物館
＜京都府深草遺跡出土石包丁＞『Ⅰ期ゼミ　中１社会』塾用問題集　ティエラコム
＜神奈川県月見野Ⅰ遺跡出土尖頭器　他＞2013 年度『第１回全統マーク模試』地理歴史「日本史 B」　河合塾
＜岩手県雨滝遺跡出土石匙　他＞『年代早覚え　日本史まんが年表　増補改訂版』　学研教育出版
＜千葉県江原台遺跡出土山形土偶＞梅原猛『縄文の神秘』（文庫・電子書籍）　学研パブリッシング
＜北海道置戸安住遺跡出土掻器　他＞『中学受験コース　エブリスタディアドバンスト　5 年生　スタンダード・ハイレベル共通　6 月号社会』『中学受験コース　エブリスタディアドバンスト　答えと考え方　5 年生　スタンダード・ハイレベル共通　6 月号社会』　Ｚ会
＜群馬県岩宿遺跡出土岩宿Ⅰ石器文化の石器　他＞『群馬歴史文化遺産調査報告書』
＜栃木県篠山貝塚出土羽状縄文系土器＞洋泉社 MOOK『入門　縄文の世界』　洋泉社

（５）図書

①購入･寄贈数

年　度		2009	2010	2011	2012	累計
購入	一般図書	203	200	123	71	1,336
	雑誌	96	146	134	230	915
受贈数		4,214	3,413	3,837	4,113	25,971
遡及数		14,557	0	0	0	89,939
合　計		19,070	3,759	4,094	4,414	118,161

※数値は、2005 年度に開始したデータベース入力の実数。
※遡及数は、過去に博物館予算で購入もしくは博物館で受贈した図書のうち、図書館へ移管した数字。2009 年度で終了。

V 統計資料

1　入館データ

（1）入館状況

①開館日数・時間

ア　開館期間（休館日）　344日（休館日　8月10日～16日、8月19日、12月26日～1月7日）

イ　開館時間　10時～17時

ウ　月別開館日数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
博物館	30	31	30	31	23	30	31	30	25	24	28	31	344

エ. 月別入館・利用者数

博物館	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
常設展	4475	4773	5497	5433	4378	3137	4159	5092	2937	3040	2966	3717	49604
特別展	1996	3926	3561	2066	1680	1022	1250	1792	605	0	1161	1815	20874
図書室	322	539	659	694	368	452	749	715	686	338	231	220	5973
教室等利用者数	126	122	155	107	95	163	141	152	166	118	105	187	1637
計	6919	9360	9872	8300	6521	4774	6299	7751	4394	3496	4463	5939	78088
「驚きの博物館コレクション展！」を含めた総利用者数													91658

②特別展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
特別展　氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD	10 月 12 日～12 月 12 日	62 日間	3647 名
驚きの博物館コレクション展！―時を超え、世界を駆ける好奇心（名古屋市博物館にて開催）	2013 年 2 月 2 日～3 月 17 日	37 日間	13570 名

③主催・共催展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
URUSHI！ ―漆　Part1　多彩な漆利用　栽培から漆芸まで	3 月 17 日～4 月 16 日	31 日間	2668 名
URUSHI！ ―漆　Part2　並木恒延漆絵の世界	6 月 9 日～7 月 9 日	31 日間	5062 名
夏休みいろはカルタまつり ―時田昌瑞ことわざコレクションから―	7 月 27 日～8 月 26 日 （8/10～16 休館）	24 日間	2245 名
刑事部門収蔵品紹介　内藤家文書の魅力			
新収蔵・収蔵資料展 2012	9 月 1 日～9 月 19 日	19 日間	1022 名
下郷コレクションと霞ヶ浦の貝塚	2013 年 2 月 16 日～3 月 17 日	30 日間	2266 名

④その他展覧会

名称	期間	開館日数	入館者数
冒険家植村直己の足跡	4 月 26 日～5 月 23 日	28 日間	4549 名

（2）団体見学

①月別集計一覧

ア 学校団体

学校見学	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
団体数	1	14	5	4	2	5	2	8	1	5	2	2	51
人数	6	302	265	103	28	96	39	239	17	70	78	14	1257

イ 一般団体

一般見学	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
団体数	5	5	7	10	2	4	9	7	1	1	5	5	61
人数	103	98	255	289	39	92	227	165	159	12	106	70	1615

②団体一覧

2012 年

4月

ペトロナス工科大学学長一行、大磯歩こう会、いわき南地区保護司会女性部会、神社へいってみよう、野方ことぶき会、雫石町立雫石中学校

5月

山梨英和中学校・高等学校 歴史研究同好会、千葉県立幕張総合高等学校 3年、シニアライフを生き生きと歩む会、盛岡市立城西中学校、北海道岩見沢市立光陵中学校、多摩歴鑽会、愛知県あま市立七宝北中学校、豊川市立西部中学校、豊川市立南部中学校、敦賀市立松陵中学校 4組、敦賀市立松陵中学校 1組、敦賀市立松陵中学校 7組、あじさい歴史サークル、多治見市立南姫中学校、紀美野町立野上中学校 3年、岩倉高等学校 2年、江戸歩き食べ歩きの会、雲雀丘学園高等学校、NPO 法人東京シティガイドクラブ

6月

東京都立一橋高等学校定時制、御嵩町立向陽中学校 3年、武相高等学校、小金井史談会、大府市立大府西中学校、八代高等学校関東地区同窓会、六ヶ村活き活き交流会、大宮開成高等学校 2年、杉並モクモク会、茨城県退職高等学校長会クラブ「旅の会・ゆう」、読売・日本テレビ文化センター、図書館ボランティア草加 広報部

7月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、陸平をヨイショする会、明治大学昭和39年卒業クラス会、明治大学司法書士倶楽部、大成高等学校PTA、川口短期大学、神奈川県立平塚中等教育学校、JASSくらぶ、岩宿博物館、千葉県立長生高等学校 PTA、関東学院中学校 2年、明治大学ロー・イン・ジャパンプログラム、高崎高等学校 PTA、明治大学付属中野中学校 1年

8月

東村山市立東村山第二中学校地理歴史研究部、佐倉市民カレッジ、西武台千葉中学校 3 年、江戸東京魔界さんぽ

9月

神戸学院大学佐藤ゼミナール、明神下診療所、常磐大学人間科学部伊田ゼミナール、東久留米市立南中学校、ディノス山登り部、神奈川県議会議員 高橋栄一郎後援会、明治学院中学校、埼玉県所沢市立所沢中学校、いわき市環境整備事業協同組合

10月

埼玉県立本庄高等学校 PTA、明治大学長野県父母会、麹町学園女子高等学校、麻生区ヘルスメイト、明治大学情報コミュニケーション学部 タイ短期留学生、二水会、水戸歩く会、東友会、相模原市中央区明るい選挙推進協議会、大東文化大学秋期オープンカレッジ、所沢高齢者大学 33 期

11月

相洋高等学校 史跡研究部、千葉県立印旛明誠高等学校 2年、明治大学理工学部、豊岡プロバスクラブ、岡山県立倉敷天城中学校、浦和高年大学第19期校友会、桐朋女子中学校 3年、曹洞宗埼玉県第一宗務所、本所鉄交鋼友会、荒川区立第三日暮里小学校 PTA、東京都立一橋高等学校定時制、足立区立第十中学校 開かれた学校づくり協議会、茨城県立佐和高等学校、新潟県立柏崎常盤高等学校 2年、館野地区公民館、NPO 法人 東京シティガイドクラブ

12月

グループタウンウォッチング、お茶の水女子大学文教育学部考古学通論 2

2013 年

1月

東京大学教育学部附属中等教育学校 1 年 C 組、自由の森学園中学校、術科教養部、川崎市立西高津中学校 2 年 4 組、三郷市立瑞穂中学校 2 年 3 組 4 班、三郷市立瑞穂中学校 2 年 3 組 2 班

2 月
豊島区第 3 地区青少年育成委員会、クラブツーリズム　気軽にそとあるき、かえつ有明中学校、はにわの館友の会、流山市立博物館、逗葉保護司会、成城中学校
3 月
府中市立府中第二中学校、DAN の会（NPO エンジョイシニアライフ）、青山学院中等部、飛騨考古学会、クラブツーリズム　気軽にそとあるき、鷹の台団地　元気会、中村国際刑事法律事務所

（3）視察・研修・職場体験受入

①受入団体数･参加人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
団体数	—	2	—	1	—	—	—	1	—	—	1	—	5
人数	—	13	—	1	—	—	—	3	—	—	1	—	18

②団体名一覧

創価大学見学実習（5月26日）　神田一橋中学校職場体験（5月22日）　大泉高等･中学校職場体験（7月10～12日）
白鴎高等･中学校職場体験（11月6～9日）　帝京大学企画グループ博物館準備担当者（2013年2月19日）

（4）図書閲覧サービス

①図書室

ア　開室時間　月～土曜日　10:00～16:30

イ　閲覧者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
学部生 大学院生	202	357	444	464	218	277	469	484	433	199	77	77	3701
明大教職員	10	10	12	28	24	23	16	14	11	10	27	15	200
友の会	8	17	26	41	24	19	21	17	16	13	14	27	243
ﾘﾊﾞﾃｨｱｶﾃﾞﾐｰ会員	5	3	12	12	3	9	17	9	7	4	6	8	95
聴講生	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
OB	19	23	27	19	10	17	22	33	26	14	28	19	257
他大学学生	36	63	75	88	57	66	138	118	157	52	39	30	919
一般	30	41	45	30	23	26	46	27	27	26	35	29	385
明大その他	12	24	18	12	9	15	20	12	9	20	5	14	170
合計	322	539	659	694	368	452	749	715	686	338	231	220	5973
開室日数	24	24	26	26	18	21	27	25	21	20	23	25	276
1 日平均　　人	13.4	22.5	25.3	26.7	20.4	21.5	27.7	28.6	32.7	16.9	10.0	8.8	21.6

2 組織・構成

（1）博物館スタッフ

①館長･副館長

任期:2012.4.1～2014.3.31

役職	氏名	所属	専門
館 長	風 間 信 隆	商学部教授	比較経営論
副館長	渡 浩 一	国際日本学部教授	日本文化史

②専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術･社会連携部長	白 井 利 光		
博物館事務長	坂 元 昭 一		
学芸員	外 山 徹	商品･刑事部門担当	博物館学／地域文化
学芸員	島 田 和 高	考古部門担当	旧石器文化
学芸員	日 比佳代子	刑事部門担当	日本近世史
学芸員	忽 那 敬 三	考古部門担当	弥生･古墳文化

③非常勤職員

資格	氏名	担当
短期嘱託職員	織 田 潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	新 井 ゆかり	庶務(図書)部門担当
短期嘱託職員	増 田 由 貴	刑事部門担当
短期嘱託職員	小 川 祐貴子	商品部門担当
短期嘱託職員	古 豊 裕次朗	考古部門担当
短期嘱託職員	伊 藤 友香子	考古部門担当

（2）博物館協議会

①協議会 任期 2011.4.1～2013.3.31

委員長	矢 島 國 雄	文学部教授
副委員長	浮 塚 利 夫	学術･社会連携部社会連携事務長
	小 室 輝 久	法学部准教授
	福 田 康 典	商学部准教授
	吉 村 武 彦	文学部教授
	上 杉 和 彦	文学部教授
	阿 部 芳 郎	文学部教授
	佐々木 憲一	文学部教授
	宮 腰 哲 雄	理工学部教授
	薩 摩 秀 登	経営学部教授
	古屋野 素材	情報コミュニケーション学部教授
	小 澤 芳 明	研究推進部生田研究知財事務長
	田部井 茂	教育支援部長
	庄 井 正 志	国際連携部国際連携事務長
	菊 池 亮 一	学術･社会連携部図書館総務事務長

②資料評価分科会 任期 2012.6.21～2013.3.31

座長	上 杉 和 彦	文学部教授
	佐々木 憲一	文学部教授
	小 室 輝 久	法学部准教授
	福 田 康 典	商学部准教授

（3）研究調査員 任期 2012.4.1～2013.3.31

高 橋 昭 夫	商学部教授
上 原 義 子	商学部兼任講師
落 合 弘 樹	文学部教授
山 路 直 充	市川考古博物館 文学部兼任講師
牛 米 努	税務大学校租税史料室 文学部兼任講師

（4）各種委員会

①大久保忠和考古学振興基金運営委員会
任期 2011.4.1～2013.3.31　◎は博物館協議会委員

委員長	風間信隆	博物館長	
	渡　浩一	副館長	
	安蒜政雄	文学部教授・考古学専攻主任	
	石川日出志	文学部教授・考古学専攻教員	
	阿部芳郎	文学部教授・考古学専攻教員	◎
	矢島國雄	文学部教授・学芸員養成課程教員	◎
	吉田　優	文学部准教授・学芸員養成課程教員	
	小川直裕	文学部OB	
	熊野正也	文学部OB	
	長野陽次	博物館友の会会長 ※～2012.5.12	
	鈴木　弘	博物館友の会会長 ※2012.5.13～	
	坂元昭一	博物館事務長	
	浮塚利夫	社会連携事務長	◎

（5）作業部会

①博物館・大学院商学研究科・商学部連携
「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト
推進部会
◎は博物館協議会委員

座長	高橋昭夫	博物館研究調査員・商学部教授（商品学）	
	福田康典	商学部准教授 （市場調査論）	◎
	上原義子	商学部兼任講師	
	外山　徹	博物館学芸員	

（6）明治大学博物館友の会

相談役	風間信隆	渡　浩一	
顧　問	大塚初重	倉田公裕	熊野正也
	杉原重夫		
会　長	鈴木　弘		
副会長	野口　淳	平井孝雄	
理　事	蕨　俊夫 （総務）	橋本秀夫 （行事）	村井孝行 （会計）
	青鹿良市 （広報）		
運営委員 （総務）	佐藤貞子		
〃（会計）	石橋知津子		
〃（行事）	松村祐安	本橋清美	
〃（広報）			
図書室管理委員代表	木戸孝義		
展示解説員代表	渡辺やす子		
監　事	斉藤正美	清水賢一	
分科会	古文書を読む会		高橋幸子
	平成内藤家文書研究会		粕谷宏幸
	工芸の会		永島世紀
	旧石器・縄文文化研究会		長野陽次
	弥生文化研究会		磯部隆信
	草生水の会		佐々木榮一
	古文書の基礎を学ぶ会		石井吉彦
	東アジアの中の古代日本研究会		松本浩男
	前方後円墳研究会		磯部隆信

（7）各種会議開催日

①博物館協議会
　6/18　9/24　2013/3/15
②資料評価分科会
　7/17　12/20
③大久保忠和考古学振興基金運営委員会
　5/21
④博物館・友の会連絡会議
　5/17　9/20　11/22　2013/2/21　合計 4 回

3 予算・決算

（1）2012年度事業費予算・決算

予算

目的 / 科目	博物館費	基金事業費	政策経費１ 特別展「氷河時代」	政策経費２ 大学博物館交流事業	政策経費３ 前場幸治瓦コレクション整理	政策経費４ 内藤家文書研究・交流	合計
兼務職員人件費	1,736,000	0	0	0	1,150,000	689,000	3,575,000
福利費	20,000	0	0	0	0	0	20,000
修繕費	200,000	0	0	0	0	0	200,000
旅費交通費	1,433,000	10,000	500,000	410,000	90,000	1,270,000	3,703,000
業務委託費	2,300,000	0	630,000	0	0	98,000	3,028,000
保険料	450,000	0	35,000	0	0	0	485,000
準備品	0	0	0	0	0	0	0
その他の消耗品費	2,945,000	20,000	80,000	5,000	130,000	0	3,160,000
印刷製本費	2,910,000	0	1,270,000	1,700,000	0	0	5,880,000
運搬費	50,000	0	5,800,000	0	0	0	5,850,000
広告費	0	0	540,000	0	0	0	540,000
支払手数料	280,000	30,000	55,000	4,040,000	130,000	118,000	4,623,000
賃借料	20,000	0	0	0	0	0	20,000
会合費	120,000	60,000	90,000	15,000	0	39,000	264,000
公租公課	35,000	0	0	0	0	0	35,000
教育研究用機器備品	3,400,000	0	0	0	0	0	3,400,000
図書費	3,500,000	0	0	0	0	0	3,500,000
管）その他の消耗品費	50,000	0	0	0	0	0	50,000
合　計	19,449,000	120,000	9,000,000	6,170,000	1,500,000	2,214,000	38,333,000
前年度予算額	19,449,000						37,498,000
増・減（△）	0						835,000

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算振替は反映していない
※合計金額は博物館費と政策経費の合計で基金事業費を含んでいない
※基金事業費の内雑費は奨励金額があらかじめ確定しないため計上していない

決算

目的 / 科目	博物館費	基金事業費	政策経費１ 特別展「氷河時代」	政策経費２ 大学博物館交流事業	政策経費３ 前場幸治瓦コレクション整理	政策経費４ 内藤家文書研究・交流	合計
兼務職員人件費	828,123	0	0	0	1,322,618	764,074	2,914,815
福利費	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	107,750	0	0	0	0	0	107,750
旅費交通費	1,021,690	0	990,030	402,710	28,100	864,273	3,306,803
業務委託費	1,106,484	0	846,930	0	0	0	1,953,414
保険料	349,578	0	0	0	0	0	349,578
準備品	492,990	0	0	0	0	0	492,990
その他の消耗品費	1,897,326	0	0	0	100,380	0	1,997,706
印刷製本費	1,373,169	0	1,618,869	1,621,000	0	0	4,613,038

目　的 科　目	博物館費	基金事業費	政策経費１ 特別展「氷河時代」	政策経費２ 大学博物館交流事業	政策経費３ 前場幸治瓦コレクション整理	政策経費４ 内藤家文書研究・交流	合計
運搬費	215,977	0	3,472,350	0	0	0	3,688,327
広告費	157,500	0	1,372,875	0	0	0	1,530,375
支払手数料	331,929	0	0	4,000,000	0	120,000	4,451,929
賃借料	0	0	0	0	0	0	0
会合費	62,668	19,544	86,592	0	0	34,640	183,900
公租公課	25,000	0	0	0	0	0	25,000
教育研究用機器備品	7,934,290	0	0	0	0	0	7,934,290
図書費	131,250	0	0	0	0	0	131,250
管）福利費	15,750	0	0	0	0	0	15,750
教）雑費	0	4,448,460	0	0	0	0	0
管）雑費	8,445	0	0	0	0	0	8,445
合　　計	16,059,919	4,468,004	8,387,646	6,023,710	1,451,098	1,782,987	33,705,360
前年度決算額	16,726,582						29,922,263
増・減（△）	△2,333,337						3,783,097

※予算額を超える執行は年度途中に予算振替の措置を取っている
※合計金額は博物館費と政策経費の合計で基金事業費を含んでいない
※基金事業の奨励金は「教）雑費」として支出している

（２）2012 年度収入

科目：その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	326,700
公開講座等受講料	0	0
文献複写・資料代	10,000	30,420
撮影・掲載料	200,000	1,180,500
スライド販売料	0	0
出品謝礼	0	0
特別展入場料	450,000	717,940
特別講演会資料代	0	0
ミュージアムグッズ売上	10,000	557,800
その他	10,000	23,000
合　　計	1,280,000	2,836,360
前年度予算･決算額	1,280,000	3,406,570
増・減（△）	0	△570,210

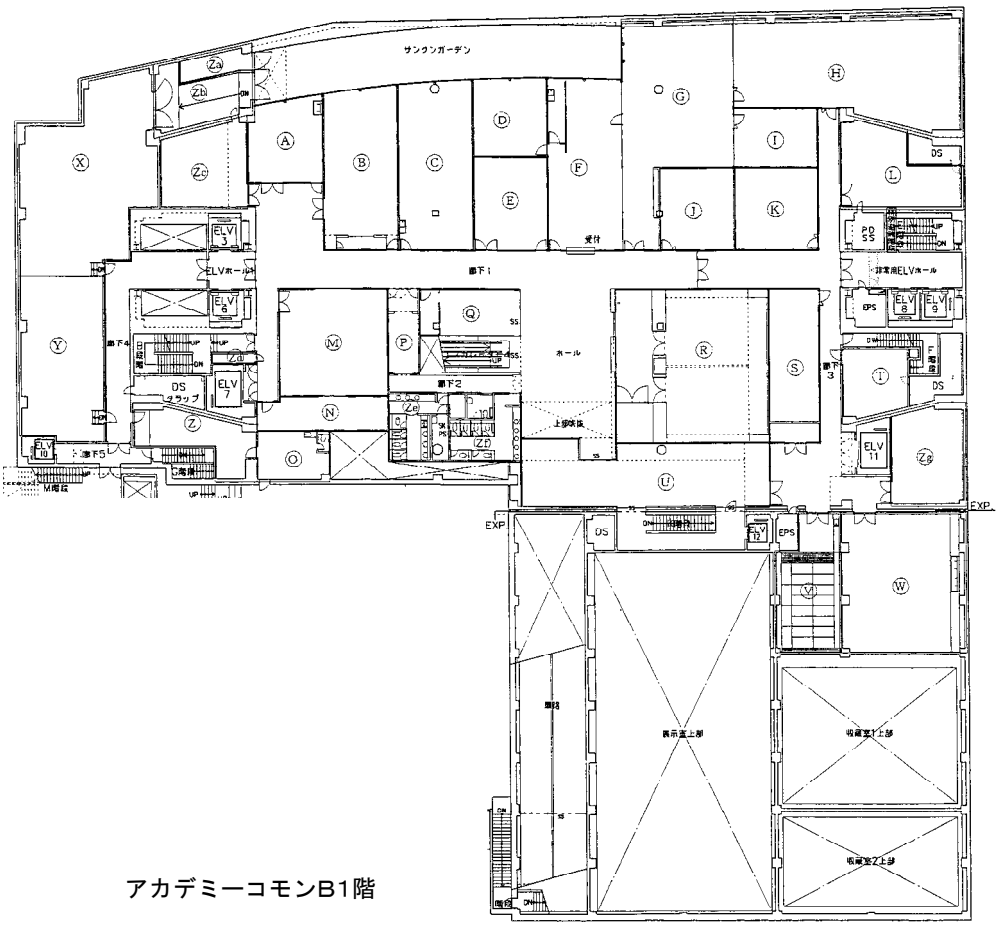
4　施設概要・見取り図

（1）施設概要

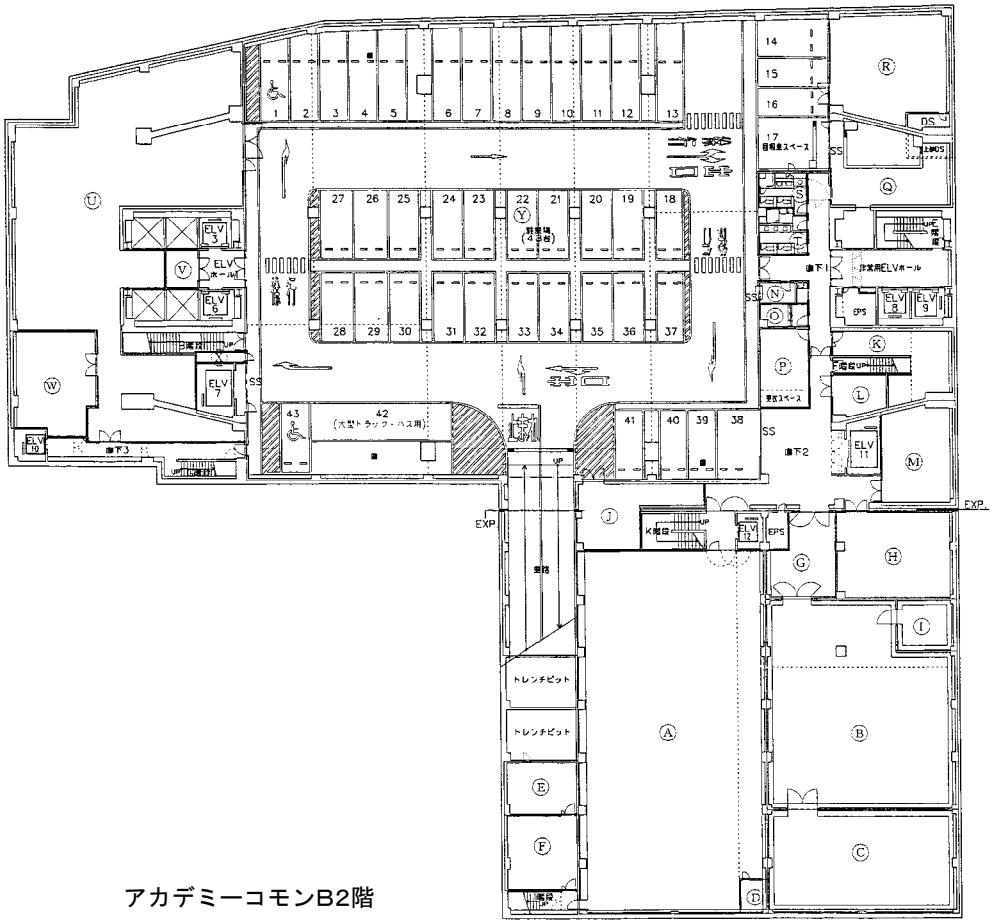
（単位　㎡）

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86 ㎡	243.90 ㎡
	事務室	B1	F	94.06 ㎡	
	会議室	B1	J	45.12 ㎡	
	倉　庫	B1	L	61.86 ㎡	
教育普及部門	図書室	B1	G	145.04 ㎡	523.22 ㎡
	書　庫	B1	H	176.03 ㎡	
	閲覧室	B1	I	35.95 ㎡	
	博物館教室	B1	B	87.94 ㎡	
	体験学習室	B1	A	44.31 ㎡	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95 ㎡	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19 ㎡	785.73 ㎡
	大学史展示室	B1	U	115.20 ㎡	
	特別展示室	B1	R	173.34 ㎡	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03 ㎡	332.76 ㎡
	作業室 1	B1	V	60.80 ㎡	
	作業室 2	B1	W	129.70 ㎡	
	展示準備室	B1	K	50.23 ㎡	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90 ㎡	649.11 ㎡
	一時保管室	B2	H	77.35 ㎡	
	収蔵室 1	B2	B	271.46 ㎡	
	収蔵室 2	B2	C	147.37 ㎡	
	特別収蔵室	B2	I	23.28 ㎡	
	写真保管室 1	B1	S	56.68 ㎡	
	写真保管室 2	B1	T	34.07 ㎡	
	合　計				2,534.72 ㎡

（2）施設見取り図



アカデミーコモンB1階



アカデミーコモンB2階

5 規程

明治大学博物館規程

1991年10月31日制定
1991年規程第２号

（趣旨）

第１条 この規程は、明治大学学則第64条第２項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友並びに一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

（事業）

第３条 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
(2) 前号に関する調査、研究及び開発
(3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
(4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
(5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
(6) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
(7) 生涯教育の振興及び学習支援
(8) 分館の設置及び運営
(9) その他必要と認められる事業

（館長）

第４条 博物館に、館長１名を置く。

２ 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。

３ 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により本大学が任命する。

４ 館長の任期は、２年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。

５ 館長は、再任されることができる。

６ 館長は、学部、大学院、付属学校又は付属機関の長を兼ねることができない。

（副館長）

第５条 博物館に、副館長１名を置く。

２ 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。

３ 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、本大学が任命する。

４ 副館長の任期は、２年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

５ 副館長は、再任されることができる。

（事務及び職員）

第６条 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

２ 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職１名並びに学芸員及び職員若干名を置く。

３ 学芸員は、第３条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

（研究調査員）

第６条の２ 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

２ 研究調査員は、本大学の教職員並びに学外の有識者及び若手研究者の中から、館長が次条に規定する明治大学博物館協議会の同意を得て委嘱する。

３ 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

（博物館協議会）

第７条 博物館の運営に関する事項について検討し、及び協議し、並びに館長の諮問に応じるため、博物館に明治大学博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

２ 協議会は、本大学の専任教職員の中から、館長の意見を聴いて学長が委嘱する委員若干名をもって組織する。

３ 委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

４ 委員は、再任されることができる。

５ 協議会に、委員長及び副委員長各１名を置く。

６ 委員長及び副委員長は、委員の互選により、これを定める。

７ 委員長は、協議会を招集し、その議長となる。

８ 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

９ 協議会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

１０ 協議会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。

１１ 分科会に関し必要な事項は、委員長が協議会の同意を得て、これを定める。

（規程の改廃）

第８条 この規程を改廃するときは、協議会の議を経なければならない。

（雑則）

第９条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、館長が協議会に諮り、学長の承認を得て別に定める。

附 則（1991年規程第２号）

（施行期日）

１ この規程は、1991年（平成３年）10月31日から施行する。

（明治大学刑事博物館規程等の廃止）

２ 次に掲げる規程は、廃止する。

(1) 明治大学刑事博物館規程（昭和56年規程第72号）
(2) 明治大学商品陳列館規程（昭和56年規程第73号）
(3) 明治大学考古学博物館規程（昭和56年規程第74号）

（通達第 669 号）

附　則（1996 年度規程第 16 号）

この規程は、1997 年（平成 9 年）4 月 1 日から施行する。

（通達第 893 号）（注　博物館協議会の設置に伴う改正）

附　則（2001 年度規程第 14 号）

この規程は、2002 年（平成 14 年）4 月 1 日から施行する。

（通達第 1143 号）（注　商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正）

附　則（2003 年度規程第 8 号）

（施行期日）

1　この規程は、2004 年（平成 16 年）4 月 1 日から施行する。

（改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例）

2　改正前の明治大学博物館規程第 6 条第 1 項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第 8 条第 1 項の規定にかかわらず、2004 年（平成 16 年）3 月 31 日をもって満了するものとする。

（通達第 1232 号）（注　刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正）

附　則（2006 年度規程第 13 号）

この規程は、2006 年（平成 18 年）11 月 16 日から施行する。

（通達第 1490 号）（注　事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正）

附　則（2007 年度規程第 21 号）

この規程は、2007 年（平成 19 年）9 月 10 日から施行する。

（通達第 1562 号）（注　事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附　則（2008 年度規程第 4 号）

この規程は、2008 年（平成 20 年）5 月 20 日から施行する。

（通達第 1689 号）（注　研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正）

附　則（2009 年度規程第 7 号）

この規程は、2009 年（平成 21 年）6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

（通達第 1807 号）（注　事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994 年 9 月 26 日制定
1994 年度例規第 7 号

（趣旨）

第１条　この要綱は、明治大学博物館規程（1991 年規程第２号）第９条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品（以下「資料等」という。）の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1)　撮影　資料等の写真、映画、テレビジョン若しくはビデオテープレコーダーによる撮影、模写又は複製を行うことをいう。

(2)　影印　資料等を、写真印刷により復刻することをいう。

(3)　熟覧　営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

（申請）

第３条　資料等の撮影及び掲載（以下「撮影・掲載」という。）を希望する者（以下「申請者」という。）は、所定の資料撮影・掲載申請書（以下「申請書」という。）を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長（以下「館長」という。）に提出し、許可を受けなければならない。

（許可）

第４条　館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2　前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

(1)　撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。

(2)　掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。

(3)　撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。

(4)　撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。

(5)　前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

（撮影・掲載を許可しない場合）

第５条　次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載（第５号に該当する場合にあっては、第８条に規定する掲載を除く。）を許可しない。

(1)　撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合

(2)　撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合

(3)　撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合

(4)　博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合

(5) 撮影をすることなく、資料等の写真原版若しくは複製物、博物館所蔵の映画フイルム若しくはビデオテープ又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができると明らかに認められる場合

(6) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

(料金)

第６条 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表第１に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。

２ 料金は、資料等を１点当たりの金額とする。

３ いったん納付された料金は、原則として、還付しない。

(料金の免除)

第７条 前条第１項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

(1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。

(2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。

(3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。

(4) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。

(5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。

(6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。

(7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

２ 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、１部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

(準用規定)

第８条 資料等の熟覧及び写真原版、ビデオテープ又は複製物の利用による掲載（以下「貸出掲載」という。）については、第３条から前条までの規定を準用する。

２ 前項の場合において、第６条第１項中「別表第１に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあっては別表第２に定める料金を、貸出掲載にあっては別表第３に定める料金を」と読み替えるものとする。

(その他の諸経費)

第９条 この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

第 10 条 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

２ 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

第 11 条 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

２ 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

(許可の取消し等)

第 12 条 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

２ 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

第 13 条 この要綱に定めのない事項については、館長が博物館協議会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

附 則（1994 年度例規第７号）

この要綱は、1994 年（平成６年）９月 27 日から施行する。

附 則（1997 年度例規第７号）

この要綱は、1997 年（平成９年）12 月 16 日から施行し、改正後の第１条及び第 13 条の規定は、同年４月１日から適用する。

（通達第 922 号）（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正）

附 則（2004 年度例規第７号）

この要綱は、2004 年（平成 16 年）10 月１日から施行する。

（通達第 1312 号）（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフイルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正）

附 則（2007 年度例規第９号）

この要綱は、2007 年（平成 19 年）９月 10 日から施行する。

（通達第 1563 号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2009 年度例規第９号）

この要綱は、2009 年（平成 21 年）６月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年４月 22 日から適用する。

（通達第 1808 号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

別表第１（第６条関係）　撮影・掲載料金

１　一般

写真　映画 テレビジョン ビデオテープ レコーダー 模写	10,000
複製	20,000

（単位：円）

２　影印

影　印	頒布価格×（該当ページ数÷総ページ数）×0.05×出版部数の算式により算出された額。ただし、料金の最低限度額を 10,000 円とする。

（単位：円）

別表第２（第８条関係）　熟覧料金

熟　覧	5,000

（単位：円）

別表第３（第８条関係）　貸出掲載料金

１　フィルム

サイズ	４×５	６×８ ６×６	35㎜
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

（単位：円）

２　紙焼

サイズ	キャビネ以上	キャビネ未満
カラー	2,000	1,000
モノクローム	2,000	1,000

（単位：円）

３　ビデオテープ

ビデオテープ	10,000

（単位：円）

明治大学博物館特別展示室の利用に関する取扱要綱

2005 年 10 月 4 日制定
2005 年度例規第７号

（趣旨）

第１条　この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程（昭和 46 年規程第 38 号）第１条第３項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ（以下「特別展示室」という。）の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

（管理責任者）

第２条　特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

（利用範囲）

第３条　特別展示室は、博物館が実施する特別展等（以下「特別展等」という。）に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

(1)　学内関係機関による展示活動
(2)　クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
(3)　本学公認サークルによる展示活動
(4)　本学の専任教職員が第５条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
(5)　本学の校友が第５条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
(6)　その他特に管理責任者が許可した展示活動

（利用日及び利用時間）

第４条　特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

２　利用時間は、午前 10 時から午後 4 時 30 分までとする。

３　利用期間は、原則として２週間を限度とする。ただし、前条第１号及び第２号に該当する場合は、この限りでない。

（利用申込み）

第５条　特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の６週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

（利用許可）

第６条　管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の３週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

(1)　特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
(2)　付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
(3)　その他利用が不適当と認められる場合

２　前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

（利用の中止）

第７条　利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の２週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

（利用の取消し等）

第８条　次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

(1)　本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。

(2)　利用申請書に虚偽の記載があったとき。

(3)　特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。

(4)　その他特別展示室の利用が不適当と管理責任者が認めたとき。

２　前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

（遵守事項）

第９条　利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

（利用料等）

第10条　利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、２週間前までに利用料を納入しなければならない。

２　前項の規定にかかわらず、第３条第１号、第２号及び第３号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。

３　第３条第４号及び第５号に該当する場合の利用料は、１日につき 2,700 円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。

４　第３条第６号に該当する場合の利用料は、１日につき 5,400 円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。

５　いったん納入された利用料は、第７条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第８条第１項第１号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。

（権利の譲渡及び転貸の禁止）

第11条　利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

（損害賠償）

第12条　利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

２　前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。

３　盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

（主管部署）

第13条　特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

（要綱の改廃）

第14条　この要綱を改廃するときは、博物館協議会の議を経なければならない。

附　則（2005 年度例規第８号）

この要綱は、2005 年（平成 17 年）10 月 5 日から施行する。

（通達第 1397 号）

附　則（2007 年度例規第９号）

この要綱は、2007 年（平成 19 年）9 月 10 日から施行する。

（通達第 1563 号）（注　事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附　則（2009 年度例規第９号）

この要綱は、2009 年（平成 21 年）6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

（通達第 1808 号）（注　事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

1995 年５月８日制定
1995 年度規程第２号

（設定）

第１条　明治大学（以下「本大学」という。）に、本大学文学部史学地理学科（考古学専攻）の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金 5,000 万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振興基金（以下「基金」という。）を設定する。

（目的）

第２条　基金は、考古学及び明治大学博物館（以下「博物館」という。）にかかわる調査・研究（以下単に「調査・研究」という。）を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。

（資産）

第３条　基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。

(1)　第１条の指定寄付金

(2)　基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金

(3)　第７条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産

（基金の運用等）

第４条　基金の資産は、資金の運用に関する規則（2009 年度規則第 20 号）に基づいて運用する。

２　前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。

３　基金は、第６条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることができるものとする。

（事業）

第５条　基金による事業は、次のとおりとする。

(1)　調査・研究に対する助成

(2)　調査・研究によって得られた成果に対する顕彰

(3)　前２号のほか、第２条の目的達成に必要な事業

２　前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。

（基金運営委員会）

第６条　基金の運用等及び前条第１項の事業に関する事項

を審議するため、基金運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2　運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1)　明治大学博物館長　１名

(2)　文学部史学地理学科考古学専攻主任（次号において「主任」という。）１名

(3)　文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうちから主任が推薦する者　若干名

(4)　学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長　２名

(5)考古学に関し高度の学識経験を有する者　若干名

3　前項第３号及び第５号の委員は、委員長が委嘱する。

4　委員の任期は、職務上委員となる者を除き、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5　第２項第３号及び第５号の委員は、再任されることができる。

6　運営委員会に、委員長を置き、第２項第１号の委員をもって充てる。

7　委員長に事故あるときは、第２項第２号の委員が、その職務を代行する。

8　委員長は、会務を総理する。

9　委員長は、会議を招集し、その議長となる。

10　運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

11　運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

12　運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。

（収支残額の処理）

第７条　毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。

（事務）

第８条　基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

（規程の改廃）

第９条　この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

（雑則）

第 10 条　この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。

附　則（1995 年度規程第２号）

（施行期日）

1　この規程は、1995 年（平成７年）5 月 9 日から施行する。

（委員の任期の特例）

2　この規程の施行後、最初に任命される第６条第２項第３号及び第５号の委員の任期は、同条第４項本文の規定にかかわらず、1997 年（平成９年）3 月 31 日までとする。

（通達第 806 号）

附　則（2003 年度規程第 35 号）

この規程は、2004 年（平成 16 年）4 月 1 日から施行する。

（通達第 1282 号）（注　考古学博物館が明治大学博物館として統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更に伴う改正）

附　則（2007 年度規程第 40 号）

この規程は、2007 年（平成 19 年）11 月８日から施行する。

（通達第 1604 号）（注　事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正）

附　則（2009 年度規程第７号）

この規程は、2009 年（平成 21 年）6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

（通達第 1807 号）（注　事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附　則（2010 年度規程第６号）

この規程は、2010 年（平成 22 年）5 月 26 日から施行し、改正後の規定は、同年 3 月 30 日から適用する。

（通達第 1911 号）（注　資金の運用に関する規則の制定に伴う改正）

明治大学博物館友の会会則

1988 年 6 月 25 日制定
1993 年 4 月 1 目改訂
2006 年 4 月 1 目改訂
2010 年 4 月 1 日改訂

（名称）

第１条　本会は、明治大学博物館友の会という。

（事務所）

第２条　本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台１－１明治大学博物館（以下「博物館」という。）内に置く。

（目的）

第３条　本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

（事業）

第４条　本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

１．講演会・研修会・見学会などの開催
２．会報、ニュース、図書の発行
３．会員による自主研究分科会活動
４．博物館事業への協力活動
５．その他目的達成に必要と認められた事業

（入会）

第５条　本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

（会員の特典）

第６条　会員には、次の特典がある。

１．本会および博物館の行事などの情報提供
２．明治大学並びに博物館主催行事への優待参加
３．明治大学図書館の閲覧
４．関係図書・資料等の割引購入

（退会）

第７条　会員の資格は、次の場合に消滅する。

１．退会の申し出があった場合
２．死亡した場合

３．会費の有効期限が過ぎた場合
４．本会の趣旨に違背した行為があったと認められる場合

（役員）

第８条　本会に、次の役員を置く。

会　　長	１名
副 会 長	２名
理　　事	５名以内
運営委員	若干名
監　　事	２名以内

（役員の選出）

第９条　役員は、次のとおり選出するものとする。
１．会長および監事は、総会で選出する。
２．副会長および理事は、会長が任命する。
３．総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は、理事会において選任し、会長が任命する。
４．上記２．３について、会報で報告する。
５．監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

（役員の職務）

第10条　役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。
１．会長は、本会を代表し、会務を総理する。
２．副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ない時は、その職務を代行する。
３．理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。
４．運営委員は、理事と共に会務を行う。
５．監事は、会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べることが出来る。

（役員の任期）

第11条　役員の任期は、２年とする。
１．役員の再任を、妨げない。
２．補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

（相談役・顧問）

第12条　本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。
１．相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
２．相談役および顧問は、会長の諮問に応じる。

（総会）

第13条　本会は、年１回総会を開き、当該年度の事業報告・会計報告並びに次年度の事業計画・予算案の承認を出席会員の過半数により議決する。

なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、臨時総会を開催しなければならない。

（理事会）

第14条　理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、必要に応じて会長が招集し、次の事項を審議・決定する。
１．総会に付議する重要な事項。
２．その他、本会の運営に関する重要な事項。

なお、理事の過半数の要求があった場合、理事会を開催しなければならない。

（運営委員会）

第15条　運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、必要に応じて会長が招集し、本会の業務運営を行う。

また、必要に応じて分科会代表者などを含めた拡大運営委員会を開催する。

なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、運営委員会を開催しなければならない。

（会費）

第16条　本会の会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。

１．一般会員	3,000円
２．家族会員	1,500円（同居の家族）
３．学生（明治大学学生）	1,500円
４．賛助会員（１口）	10,000円

（会計）

第17条　本会の会計は、次のとおりとする。

本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

（事業年度）

第18条　本会の事業年度は、毎年４月１日より翌年３月31日までとする。

（会則の変更）

第19条　本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

（付則）
１．本会則は、改訂年４月１日から発効する。
２．本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

6　2013年度教育・研究に関する計画書

教育・研究に関する長期・中期計画書
博　物　館

１　理念・目的

昨年度末をもって新博物館開館から 8 ヶ年が経過し，本年 5 月には来館者の累計が 50 万人（図書室利用者・講座受講者を含む）に達した。旧 3 博物館時代から引き続き，1990 年代後半には顕著となってきた大学の社会開放を背景とする生涯学習事業の活性化については一定の成果を達成したと評価できる。一方，新博物館の開館以降明らかになってきた課題は，30 万点にのぼる収蔵資料のより効果的な活用と在学生による博物館活用機会の増大であった。また，今後，学長方針に謳われている「国際化」に対する施策を博物館においても企画・推進してゆくことが求められる。

そこで，博物館は以下のようなミッションを掲げ，長期・中期計画策定方針の根拠としていきたい。

ミッション１：収蔵資料の管理と教育・研究機能の拡充
博物館が管理する国内有数の収蔵資料を質・量ともに充実させ，調査・研究を進めるとともに，保存・管理及び学術情報公開の態勢を整備し，教育・研究機会における利活用を促進する。

ミッション２：学内共同利用機関としての機能拡充
学部・大学院や研究知財戦略機構と連携し，本大学の戦略的な教育・研究推進計画に寄与するとともに，博物館として特色ある教育・研究事業を実現する。

ミッション３：社会貢献・社会連携の拡充
博物館及び本大学における教育・研究の成果を社会に還元する生涯学習の多様な機会を提供するとともに，収蔵資料の原所在地等との交流を通して本大学の社会連携推進に寄与する。

２　教育研究組織

(1)　特定課題研究ユニット等との連携，研究活動への参画

刑事，商品，考古の 3 部門で構成される博物館の収蔵資料に関わる専門領域に関連して，研究・知財戦略機構の付属研究施設，研究クラスター，特定課題研究ユニットの活動への参画や連携，学部・大学院との連携強化により，教員や研究グループとの共同研究体制の構築に努める。

(2)　黒耀石研究センターへの支援

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されたセンターの研究活動に対して引き続き支援の態勢を取り，運営上の提携と事業の共同実施などの方策を推進する。

３　教職員・教職員組織

(1)　博物館協議会の改組

博物館における合議体である「博物館協議会」は，専任教員及び事務管理職によって構成されているが，旧3館時代，事務組織の統合にともなって各館の運営委員会を統合・再編したものである。その意味で，学内共同利用機関としての機能拡充において充分な態勢を取るに至らなかったことに鑑み，全学的な意思反映のネットワーク基点として機能しつつ，博物館活動の専門領域に対応し得る新たな組織を構想し，改組をおこなう。

(2)　学芸員の専門職的位置付け

本大学の博物館が他大学に対し優位な位置にある理由として，教員の兼担ではない専任の学芸員が配置されており，恒常的な館務への関与が可能な点と，専門的職務遂行要員として機能している点を指摘することができる。この当館にとっての中核的競争力を維持・保証するためには，学芸員を専門職として制度的に位置付ける必要がある。また，今後の国際的な展開を考慮するならば，研究実績を有し，外国語にも堪能な専門的人材の配置が必須要件である。

(3)　学外からの研究者受入体制の整備

博物館の収蔵資料を研究テーマとし，長期的な取り組みを志す学外の研究者による資料の継続的利用に対応する体制を整備する必要がある。レファレンス対応をはじめ，客員研究員としての受入も視野に入れて体制の整備を策定・推進する。

３　教育内容・方法・成果

(1)　博物館主催特別展

博物館の中核的事業として例年の政策的計画№1と位置づけ，担当学芸員一人当たりの年間エフォートの相当な部分を傾注している。特別展を担当する学芸員は，博物館や提携する研究機関の調査・研究の成果をもとに展覧会を企画し，実行委員会や有識者等，多方面からの意見をふまえて準備と運営を担う。

(2)　学内外の機関等と共同で開催する展覧会

これまでも利用要請にもとづき様々な展覧会を受け入れ，開催準備に対する助言・協力等をおこなってきたが，“共同利用機能の拡充”という目的を考慮すると学内団体による利用の幅をさらに広げる必要がある。特別展示室の利用を周知し，展覧会の誘致を促進する態勢を整える。

(3)　教育普及事業

一般社会人を主な対象とし，学芸員の専門的知識・技能を発揮できる博物館公開講座・入門講座等の生涯学習プログラム・研究発表会等を実施する。また，在学生教育として，学芸員資格課程における館務実習生の受入，学部間共通総合講座や学部・大学院との連携による公開特別講義などを継続するとともに，ボランティアやサークル活動等を通じた博物館事業への参加機会を考案する。加えて，学外の教育・研究機関が主催する市民講座等へも積極的に出講し，本大学と博物館の研究成果を社会に還元し，地域連携の推進に努める。

４　博物館の国際化対応

(1)　ＩＣＴミュージアムの構築

博物館の収蔵資料は国内でも有数の学術資源群であり，その活用は国際的な広がりが期待される。また，発掘調査報告書や展覧会図録といった蔵書も，際立って特色的な存在である。これら資料情報の国際的な共有を図るため，バーチャル・ミュージアムの公開等も含めた電子媒体と多言語による情報発信体制の構築を策定・推進する。

(2)　国外からの研究者受入体制の整備

資料情報の発信とともに，国外の研究者による収蔵資料の利用受入体制を整備することも必要である。客員研究員の受入も視野に体制の整備を策定・推進する。

(3)　国際化対応の組織構築

学芸員は国外での研究発表や調査活動，外国事例の研究などの実績を有するが，その成果を拡張するには，現在の博物館の人員体制は全く不充分であり，速やかな改善が求められる。明治大学における国際的研究の進展を振興する一手段として博物館の活用を考える必要がある。

５　社会連携・社会貢献

大学の社会的役割として近年注視されるようになった社会連携事業に関して，社会連携機構，リバティアカデミー，図書館と連携して充実化を図る。

(1) 地域連携・大学間連携事業の推進

ア 本大学との間に社会連携事業推進協定を締結している長野県長和町はじめ，長野県教育委員会，同埋蔵文化財センター，県立歴史館，県考古学会，黒耀石研究センターほか関連市町村等と連携し，市民と研究者を対象とした「信州黒曜石研究フォーラム」の開催などを通して黒曜石原産地と石器時代遺跡の保存・活用に関する行政的コンセンサス形成を支援する。

イ 考古学・文化人類学の分野で高い評価を得ている南山大学人類学博物館と交流協定を結び，第 1 期(2010 年度～2012 年度)の事業計画が終了するが，引き続き連携事業を継続する。

ウ これまでに地域連携の実績がある宮崎県延岡市，長和町，千代田区などとの間で地域連携を推進する。延岡市とは，政策的計画「内藤家文書研究の推進および旧領延岡市との交流事業」による地域間交流事業(2011 年度～2013 年度)を実施している。

(2) 博物館友の会活動の支援

博物館友の会は市民参画による一般社会との接点として機能しており，その活動の支援は博物館にとって極めて重要である。会員による自律的な運営体制をとっている博物館友の会はボランティア参画による展覧会や図書室の運営，資料整理等を行っていて，博物館の対外的な評価形成に果たす貢献は大きい。

6 教育研究等環境

(1) 研究環境

ア 博物館事業に関連する調査・研究

特別展の準備をはじめ博物館におけるあらゆる専門的業務の遂行にあたっては，その技術的裏付けとなる調査・研究機会の確保が重要である。これらの調査・研究に際して科学研究費補助金等の外部資金の申請が考えられるが，学芸員の申請資格(研究者番号の行使)は学内の大型研究プロジェクトに参画し，学部兼任講師であることが条件とされ大きな制約となっているので改善を求めたい。

イ 博物館資料に関連する共同研究

現在進行中の「譜代大名内藤家文書近代史料」「伝統的工芸品の経営とマーケティング」「時田ことわざコレクション」「玉里舟塚古墳出土資料」「前場幸治瓦コレクション」に関する調査・研究は，研究クラスターや特定課題研究ユニット等と共同で行われている。また，必要に応じて専任教員及び学外の有識者に研究調査員を委嘱して共同研究を行う。政策的計画「内藤家文書研究の推進および旧領延岡市との交流事業」(研究推進は 2011 年度～2015 年度)を推進する。

ウ 大学院生・学生への学習機会の提供

“共同利用機能の拡充”では，院生・学部生への学習機会の提供も主眼となる。「イ」に掲げた各種の調査研究・資料整理作業は，教員と学芸員の主導のもとに，院生・学生の協力を得ながら推進する。

(2) 施設・設備等

ア 博物館施設の見直しと改修

新博物館開館 10 周年(2014 年 4 月)を目途に，常設展示内容については学術情報の点検とアップデートを行い，必要な展示造作を改修，ミュージアム・ショップのリニューアルを策定する。

イ 収蔵スペースの増床

アカデミーコモン地下 1，2 階にある収蔵室の収容能力はすでに限界に達している。今後の体系的な資料収集と整備に資するべく，500 ㎡程度の収蔵施設(経費節減のため収納用棚は軽量棚及び中量棚とし集密棚は用いない)の増設を要望したい。また，今後の受贈資料の増加にともなう資料の専門領域の拡大によっては，対処する専門学芸員の増員についても検討する。

(3) 博物館資料及び図書・電子媒体等

ア 博物館資料の構築

刑事・考古・商品の 3 部門の専門領域について，特色ある博物館資料の構築を進めている。刑事部門では刑罰史関連資料，古文書，絵図・古地図類の関連資料，考古部門では黒曜石研究，東アジア青銅器，化石人類の関連資料，商品部門では伝統的工芸品関連資料を収集の基本方針とする。また，資料の寄贈要請に対応する。

イ 博物館資料の保存処置

博物館資料の活用の前提として，各種資料に必要な保管処置，必要に応じた修復を行う必要があるので，継続して予算措置をおこなう。

ウ 博物館資料のレファレンス体制

教育・研究への博物館資料の利用促進にあたり充分なレファレンス体制の整備は中核的な課題である。刑事部門では，2004 年度以降，譜代大名内藤家文書等の閲覧用マイクロフィルム・紙焼き等の作成や『明治大学所蔵内藤家文書目録』の再刊をとおして，学内外からの資料調査・レファレンスに迅速に対応できる体制を整えてきたが，前場瓦コレクション等の重要資料群に関しても同様な措置を講じる(前場コレクションは 2011～2013 年度政策的計画として対応している)。

エ 個性的な蔵書構築

博物館 3 部門に関連する専門図書については今後も計画的に蔵書構築を行っていく。特に，全国各地の発掘調査機関から博物館と考古学専攻に寄贈される遺跡発掘調査報告書，全国各地の博物館・美術館が刊行した展覧会図録，収蔵資料に関連する参考文献の収蔵は当博物館の存在を際立たせている。約 10 万冊の図書は，図書館に資産登録され書誌情報は OPAC に統合されているが，レファレンス環境の整備および蔵書点検を図書館と連携して推進する。

7 管理運営・財務

(1) 事務組織

博物館運営の中核的戦力である学芸員については，関係学問分野における専門的知識と技能を要する専門職として制度的に位置付けられるよう要請してゆく。現在，一般事務職員の配置がないことが学芸員による専門的職務遂行を妨げており，世界的なレベルを志向して博物館を発展させる態勢には程遠い。博物館の発展に向けて適切な事務組織を構築するために専任事務職員の配置を関係部署に要求する。

(2) 適切な財産管理手段の構築

博物館の収蔵する資料の収集プロセスは第 2 次大戦前に遡り，その間には度重なる組織改編や所在地移転があり，資産登録に関する勘定科目についても一定ではなかったため管理上の混乱が見られる。引き続き収蔵資料の所在確認を進め，資産登録手順や棚卸等の管理手段について関係各部署と協議の上，適切な財産管理体制を構築する。

8 内部質保証

(1) 自己点検・評価

例年の博物館自己点検・評価委員会による点検・評価作業が中心になるが，教員・事務管理職によって構成される博物館協議会からの意見聴取をはじめ，それ以外の教職員や学外の有識者から幅広く事業に対する意見を募るなど，点検・評価・改善の方法を制度化したい。また，各種アンケート調査をとおして，積極的に利用者の意見を聴取し，博物館運営と事業の改善に資する。

(2)　情報公開

ア　博物館資料等に関する学術情報の公開

『博物館研究報告』は，投稿規程と査読制度を整備し年次刊行している。また，各種資料整理の成果を図録，目録，報告書等として刊行する。

イ　事業報告と広報活動

事業内容・規程類・各種委員会・出版掲載利用・施設・入館者動向等については，『博物館年報』の年次刊行により公開している。同年報については，今後電子媒体による公開もおこなう。広報紙「ミュージアム・アイズ」(年 2 回発行)やミュージアム・ショップ並びに博物館，学会等とのネットワークを活用し，事業の広報に務める。またホームページの更新とタイムリーな情報提供に努める。

2013年度:政策的計画の経費等一覧							部署:博物館事務室
順位	計画課題（名称）	計画の成果・効果	必要経費（単位：万円）				
			今後3年間総額	13年度	14年度	15年度	以降経常化
1	2013 年度博物館主催特別展「天平の華・東大寺と国分寺（仮題）」	当館蔵の前場幸治瓦コレクションを軸に，東大寺・国分寺造営に関わる一級の資料を集め，考古学・文献史学の最新の研究成果を紹介し日本古代社会の実態を明らかにする。研究クラスター・日本古代学研究所の協力のもと，本大学の研究成果と特色ある学術コレクションを内外に広くアピールする。	900	900			
2	明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業	2010 年度から 3 か年で実施した交流協定事業を継続する。第２期は，相互の特色ある収蔵資料を交換展示し学生の実習教材として活用するほか，あわせて講師を派遣し展示資料を用いた実習講義と生涯学習講座を実施することで博物館教育の面で相互に不足する分野を補完する。最終年度は，特別展として南山大学の資料を明治大学で展示する。	785	110	110	565	
3	内藤家文書研究の促進及び旧領延岡市との交流事業	譜代大名内藤家文書の原所在地における出張講演会や延岡市の小中学生，宮崎県の高校生を対象とする作文コンテストを実施する。また，重要史料の抽出調査とデジタル化・翻刻等を行う。史料利用の利便性の向上により研究が促進されるとともに，研究成果の社会還元によって本大学の社会貢献を対外的にアピールできる。	475	275	100	100	
4	前場幸治瓦コレクションの体系化	2009 年度に寄贈された全国屈指の瓦コレクションの整理・精査を経て，目録を刊行することにより，教育・研究への利活用の体制を整える。最終年度に予定していた成果報告展は特別展に昇格させ，別枠で予算を設定した。本事業は，研究クラスター・日本古代学研究所との共同事業である。	310	310			

※本表の数字は計画提出時のもので実際に予算として承認された額とは異なっている。

7　博物館のあゆみ

1881（明治１４）年	１月	明治法律学校開校
1929（昭和　４）年	４月	刑事博物館・記念館５階に開設
1933（昭和　８）年	４月	刑事博物館・初代館長に大谷美隆法学部教授就任
1951（昭和２６）年	４月	刑事博物館・館長に島田正郎法学部教授就任 商品陳列館・２号館に商学部商品研究所付属資料室として開設 初代館長に林久吉商学部教授就任
1952（昭和２７）年		考古学陳列館・２号館４階に開設　初代館長に後藤守一文学部教授就任
1954（昭和２９）年	４月	刑事博物館・２号館４階へ移転、６月に一般公開開始
1955（昭和３０）年	２月	刑事博物館・博物館相当施設に指定（2004 年 3 月指定解除）
1960（昭和３５）年		考古学陳列館・館長に杉原荘介文学部教授就任
1966（昭和４１）年	４月	小川町校舎に移転(刑事博物館・３階　考古学陳列館・２階　商品陳列館・４階) 商品陳列館・館長に三谷茂商学部教授就任
1976（昭和５１）年	４月	刑事博物館・館長に鍋田一法学部教授就任
1977（昭和５２）年		商品陳列館・一般公開再開、「講演と映画の会」開催
1981（昭和５６）年	４月	１号館（刑事博物館・１階　考古学陳列館・３階)、１１号館（商品陳列館・４階）へ仮移転　商品陳列館・館長に刀根武晴商学部教授就任
1983（昭和５８）年	９月	考古学陳列館・館長に大塚初重文学部教授就任
1985（昭和６０）年	11 月	考古学博物館に名称変更　大学会館へ移転（刑事博物館･商品陳列館３階　考古学博物館４階）
1988（昭和６３）年	６月	明治大学考古学博物館友の会結成（2004 年～明治大学博物館友の会）
1991（平成　３）年	４月	３博物館事務所管部署一元化のため博物館事務室設置
1992（平成　４）年	10 月	「明治大学博物館規程」制定
1995（平成　７）年	４月	考古学博物館・館長に戸沢充則文学部教授就任
	４月	刑事博物館・館長に川端博法学部教授就任　　「博物館入門講座」開始
1996（平成　８）年	４月	考古学博物館・館長に小林三郎文学部教授就任
1997（平成　９）年	４月	博物館協議会発足
1998（平成１０）年	11 月	学長より、明治大学博物館規程に基づき「学芸員」委嘱発令
2001（平成１３）年	２月	刑事博物館 70 周年記念特別展示「新・捕りもの伝説」開催
	４月	刑事博物館・文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
2002（平成１４）年	４月	商品陳列館・商品博物館へ名称変更、館長に沢内隆志商学部教授就任
2004（平成１６）年	３月	新博物館オープニングセレモニー
	４月	「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館　「明治大学博物館規程」一部改正施行（刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合） 博物館長に小疇尚文学部教授就任 開館記念特別展「韓国スヤンゲ遺跡と日本の旧石器時代」(4/1～5/31)
	６月	副館長に渡浩一政治経済学部教授就任
	10 月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（10/1～3/31）
2005（平成１７）年	４月	博物館長に杉原重夫文学部教授就任
	10 月	特別展「江戸時代の大名―日向国延岡藩内藤家文書の世界―」(10/15～12/11)
2006（平成１８）年	８月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（8/1～3/31）
	10 月	特別展「掘り出された＜子ども＞の歴史―石器時代から江戸時代まで―」(10/7～12/10)
2007（平成１９）年	４月	明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる
	５月	新博物館入館者 15 万人 特別展「ガウランド　日本考古学の父」(5/19～7/1)
	９月	特別展「明治大学所蔵村絵図の世界　故郷の原風景を歩く」(9/14～10/23･10/26～12/4)
2008（平成２０）年	５月	特別展「クール･ジャパンを科学する　世界が注目する日本文化」(5/7～7/1)
	10 月	特別展「氷河時代の山をひらき,海をわたる　日本列島人類文化のパイオニア期」(10/10～12/12)
	12 月	新博物館入館者 25 万人
2009（平成２１）年	４月	特別展「東アジア・海のシルクロードと“福建”―陶磁器 茶文化 東西交易 水中考古―」(4/13～5/18)
	９月	新博物館入館者 30 万人
	10 月	特別展「大名と領地 ―お殿様のお引っ越し―」(10/17～12/20)
2010（平成２２）年	３月	南山大学人類学博物館と交流協定締結
	４月	分館黒耀石研究センターを明治大学研究・知財戦略機構へ移管
	10 月	特別展「王の埴輪―玉里舟塚古墳の埴輪群―」(10/9～12/12)
	12 月	新博物館入館者 40 万人
2011（平成２３）年	６月	特別展「漆器 JAPANWARE 文理融合型研究から見えてきた　漆の過去･現在･未来」(6/18～7/31)
2012（平成２４）年	１月	特別展「人類史への挑戦―南山大学考古・民族コレクション―」(1/20～3/17)
	４月	博物館長に風間信隆商学部教授就任

	5 月	新博物館入館者 50 万人
	10 月	特別展「氷河時代のヒト・環境・文化　THE ICE AGE WORLD」(10/12～12/12)
2013（平成２５）年	2 月	ギロチンとニュルンベルグの鉄の処女が名古屋へ　南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との合同特別展「驚きの博物館コレクション展！―時を超え、世界を駆ける好奇心」（2/2～3/17）
	3 月	南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生―自明性への問いとコレクションの文化資源化』を岩田書院から刊行

編集後記

２００４年の新博物館開館以来、毎年度、新たな試みによる実績を積み重ねることができていると自負しています。２０１２年度のそれは地方における大規模な館蔵資料の公開と研究成果の刊行物を出版社と提携して出版するという形で結実しました。名古屋市での展示は２０１０年度以来の南山大学人類学博物館との交流事業から発展したものでしたが、今後、同方面との関わりが進展しそうです。博物館の刊行物は窓口での頒布以外には交流機関との交換が主で、一般の書店の店頭にならぶことはありませんでした。より多くの人々に手にしていただくため、南山大との合同シンポジウムの成果刊行物を市販ルートに乗せられたのは着実な前進でした。

社会連携――特に地域連携が、現在、大学の新たなミッションとして認知されつつありますが、名古屋方面の交流とともに譜代大名内藤家文書に関わる宮崎県の旧領地域との連携も２年目を迎えました。そうした中、以前、本大学大学院人文科学研究科日本史学専攻も調査･整理に関わった､福島県いわき市域の古文書を受託保管することになりました。内藤家が延岡に転封する以前に領有していた地域との今後の交流の進展が見えてきました。

秋の特別展は各地の注目すべき旧石器遺物が集まりました。その意義については巻頭言にある通りですが、展示のデジタルコンテンツの制作もまた特筆すべき事柄です。これは２０１１年度の南山大との合同展に続く試みでしたが、今後、同様の形で学術資料の映像コンテンツを集積してゆくことが中期的な重点目標となります。特別展と言えば、２００９年度末に受贈した前場幸治瓦コレクションの整理作業は政策的計画として着々と進捗し、整理作業の成果を特別展として報告する予定となりました。２０１３年度もまた、新たな展開が見られそうです。

（編集子）

明治大学博物館年報　2012年度

2013年6月18日　発行

編　集
発行人　明治大学学術・社会連携部博物館事務室

〒101-8301　東京都千代田区神田駿河台1－1
電　話　03-3296-4448
ＦＡＸ　03-3296-4365
ＵＲＬ　http://www.meiji.ac.jp/museum/

印　刷　株式会社サンヨー
東京都千代田区神田神保町1－30

MEIJI UNIVERSITY
MUSEUM